



第IV章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査区は東西約50m、南北約5～8mの矩形をなし、中央で検出した弥生時代後期環濠を境に、その内側(東区)と外側(西区)に区を分けることができる。東区北端に隣接する側溝設置時のもの、東区東南部と西区の水路状のもの以外は、近現代の擾乱は比較的少ない。遺構面は暗褐色粘質土や褐灰色シルト質粘土の包含層で覆われた状態であったが、残りは良好ではなかった。人々の活動が途絶えた後、流水等によって遺構面が削平されながら、包含層が堆積した状態と考えられる。遺構面のレベルは、中央の環濠部分が落ち込んだ状態で、西側の標高7.6mから、環濠上端標高約6.5m側へ緩やかに傾斜し、東側の標高7mにわずかに上がる。遺構密度は、東区で比較的高く、西区で低い。

層序は上から、現代道路路盤・客土→褐灰色～黃灰色シルト質粘土、暗褐色粘質土(遺物包含層)→黄褐色～にぶい黃褐色砂質粘土(遺構面・地山)→粘土・砂の複雜な互層堆積層→青灰色粘土となる。褐灰色～黃灰色シルト質粘土の包含層S X002が調査区中央・環濠上に、暗褐色粘質土の包含層が東区東半(S X003)と西区の一部(S X164・165)の遺構面上に残存していた。東区の包含層S X003上では遺構は検出できなかったが、西区ではS X002の面で溝SD001を検出したので、これを1面とし、その下面を2面として調査を行った。遺構埋土は、暗褐色粘質土に地山の黄褐色粘質土と砂粒がブロック状に混ざるものが大半で、シルト質・灰色味が強いものもみられた。地山との区別は、平面検出時は比較的容易であったが、掘削時は地山が柔らかくやや困難であった。遺構同士の切り合いは不明瞭であった。地山の仲積堆積層は大別3層に分かれる。下層はよくグライ化した青灰色砂質～シルト質粘土、中層はグライ化した粘土と粗砂による複雜な互層状堆積、上層は黄褐色～にぶい黃褐色砂質シルト～粘土である。上層土は下層土ほどしまりもなく、汚れた土だが、無遺物の遺構面となる。

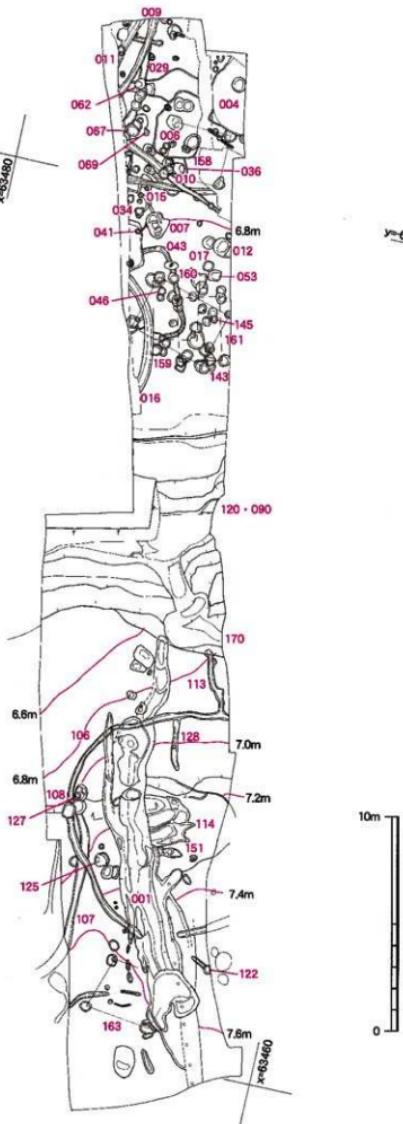
遺物の概要是、1×1間・2×1間の掘立柱建物と柱穴、壁溝のみを残す竪穴建物SC043、小溝と土坑からなる周溝建物、土坑、弥生時代後期の環濠SD120、中世水路、包含層である。掘立柱建物は5棟を復元したが、調査区外の柱穴との関連もふまえれば、さらに数棟の存在が予想される。竪穴建物SC043は、調査区内で比較的古く、環濠形成初期の遺構の可能性がある。周溝建物は、竪穴状の掘り込みを小溝が囲む遺構で、環濠内外で複数基確認した。SD120は断面逆台形の環濠で、調査区内で北西方向から北方向へ屈曲することを確認した。環濠埋没後は、流路状堆積SD090(古墳時代)、包含層S X002(古墳時代～中世)が堆積する。また、南側から走ってきた溝SD170と合流する。SD120・170からはコンテナケース100箱強の土器と、鋸造鉄斧2点、各種の土製品、木質遺物、石器が出土した。SD001は1面で確認した中世中頃の溝で、分岐したり、並走したりする小溝が伴い、水路としての機能が想定される。

遺物は、弥生土器・土師器・須恵器、埴輪、瓦、木器、石器、鐵器、ガラス製小玉など、弥生時代～近世の遺物が、コンテナケース150箱分出土した。弥生時代後期後半～古墳時代初頭の遺物を主体として、弥生時代中期・後期前半、古墳時代、飛鳥・奈良時代、中世の遺物が含まれる。以下の報告では、遺物の詳細については観察表(第1～4表)を参照されたい。陶磁器の分類・時期の記述については、宮崎亮一編(2000)『太宰府条坊跡XV：陶磁器分類編』(太宰府市の文化財第49集)を参照した。

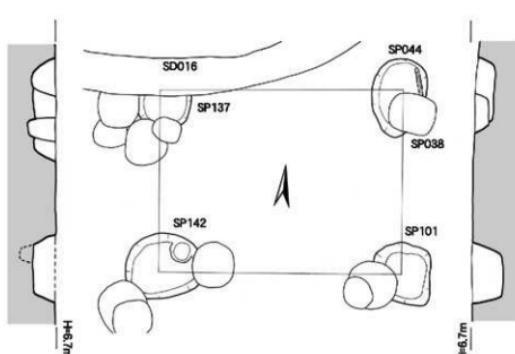
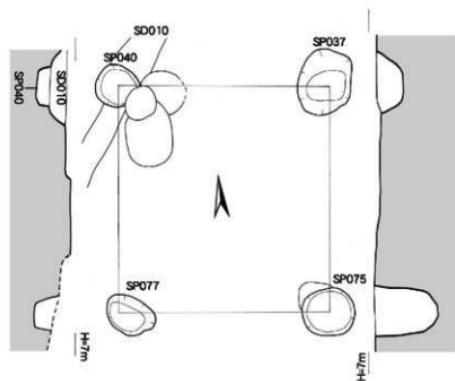
第2節 遺構と遺物

1. 掘立柱建物SB

環濠内側(東区)を中心に複数の柱穴を確認した。柱穴は円形～隅丸方形を呈し、径70～90cm、深

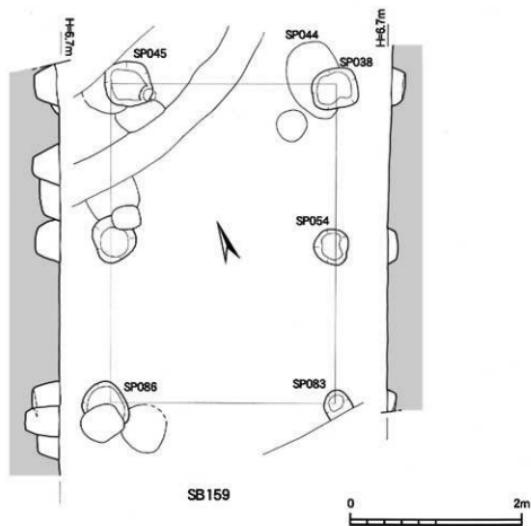
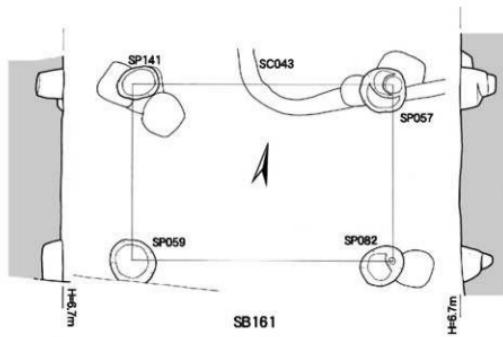


第4図 遺構全体図(1/200)

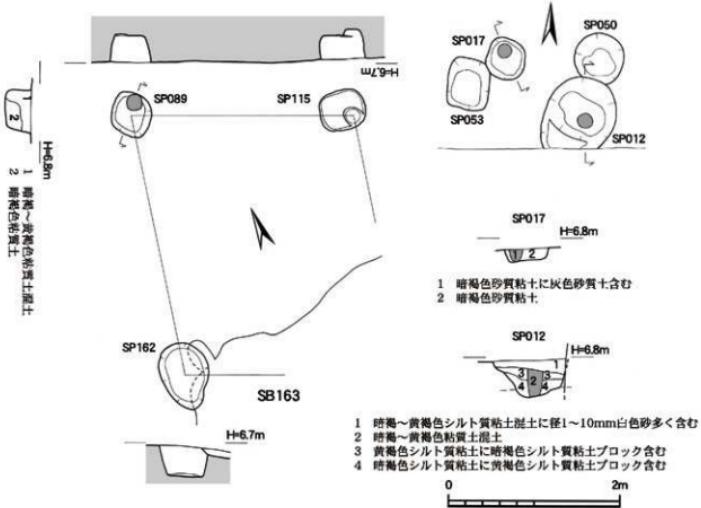


0 2m

第5図 S B 158・160実測図(1/50)



第6図 SB 161・159実測図(1/50)



第7図 S B 163・S P 実測図(1/50)

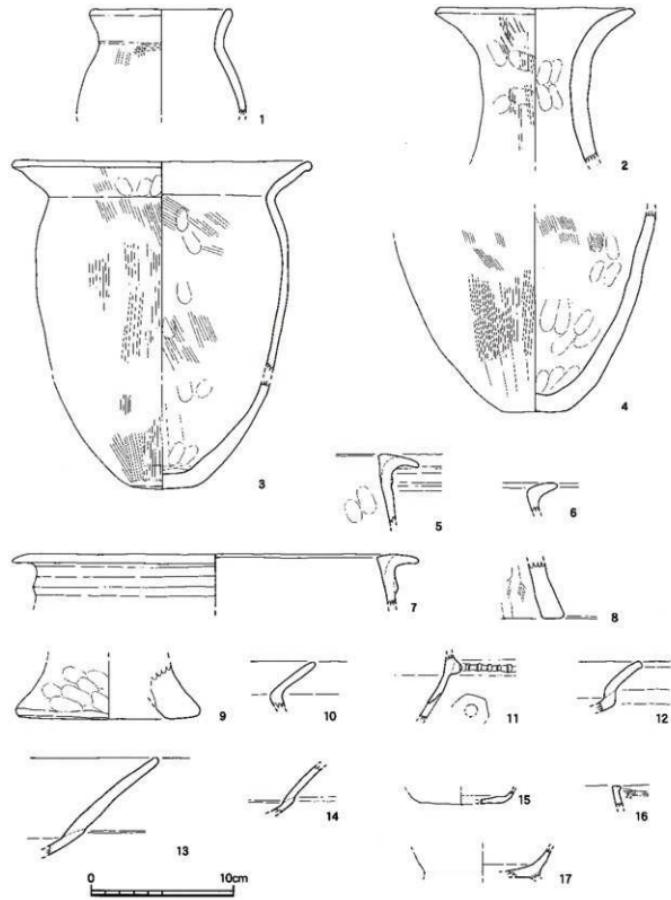
さ30~70cmの大型柱穴と、径40~50cm、深さ10~40cmの中型柱穴、それ以外の小型柱穴に大別される。柱痕跡や底面の柱当たりを残すものは少なく、残っているものでは柱径15cmほどである。調査範囲が狭く、掘立柱建物として立てられるものは限られる。建物との関わりが不明な柱穴については、柱痕跡を残すものと図化に耐える遺物が出土したものについて報告する。出土土器の時期的傾向としては、環濠内側の柱穴の大半が弥生時代後期後半~古墳時代初頭、環濠外側の柱穴には古代のものが含まれる。

S B 158(第5図) 東区東側で検出した1×1間(2.6×2.4m)の掘立柱建物である。径50~70cm、深さ30~70cmの大型柱穴S P 037・040・075・077からなる。S K004・006、S D010などの周溝建物に切られしており、本調査区の遺構群の中では比較的古いものとなる。

出土遺物(第8図) S P 077から直口壺(1)が出土した。弥生時代後期前半・高三牘式の新しい段階と考えられ、本調査区の出土遺物の中では比較的古く、遺構の層位関係とも整合的である。その他柱穴から弥生時代後期の土器片が出土している。

S B 160(第5図) 東区西側で検出した1×1間(2.8×2.2m)の掘立柱建物である。径70~90cm、深さ30~40cmの大型柱穴S P 044・101・137・142からなる。S C043を切り、S D016、S P 038(S B 159)に切られる。各柱穴から図化に耐えない弥生時代後期~古墳時代初頭の土器片が出土している。

S B 161(第6図) 東区西側で検出した1×1間(3×2m)の掘立柱建物である。径50cm、深さ30~



1 SP077(SB163) 2 SP089(SB163) 3-4 SP162(SB163) 5 SP062 6 SP050 7 SP069
 8 SP067 9 SP041 10 SP155 11 SP143 12 SP036 13 SP151 14 SP046 15 SP122
 16 SP125 17 SP127

第8図 S P出土土器実測図(1/3)

40cmの中型柱穴S P 057・059・082・141からなる。S C 043や他の中型柱穴を切る。各柱穴から固化に耐えない弥生時代後期～古墳時代初頭の土器片が出土している。

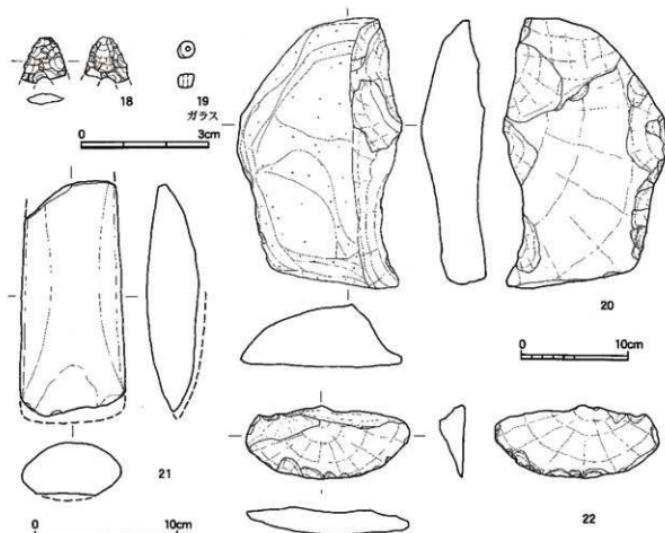
S B 159(第6図) 東区西側で検出した2×1間(3.7×2.6m)の掘立柱建物である。径40～50cm、深さ10～30cmの中型柱穴S P 038・045・054・083・他2柱穴からなる。S C 043とS P 044(S B 160)を切り、中型柱穴に切られる。

出土遺物(第9図) S P 038から黒曜石製打製石錐(18)とガラス小玉(19)が出土した。その他柱穴から弥生時代後期～古墳時代初頭の土器片が出土している。

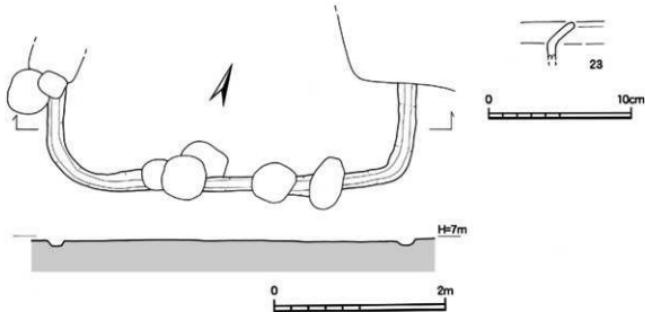
S B 163(第7図) 西区西側で検出した1×1間(3×2.5m)の掘立柱建物である。径50cm、深さ30～40cmの中型柱穴S P 089・115・162からなる。S P 089に径15cmの柱痕跡を残す。

出土遺物(第8・9図) S P 089から器台(2)、S P 162から甕(3・4)、玄武岩製蛤刃石斧(21)が出士した。21は背面が刃部から長く剥離・破損している。全体に風化が著しく詳細は不明だが、背面剥離後に、基部に平坦面がみられ、刃部もわずかに再生・使用した痕跡が認められる。出土土器2～4は弥生時代後期前半・高麗式土器の新しい段階と考えられるが、その他柱穴から弥生時代後期～古墳時代初頭の土器片が出土しており、遺構の形成時期が後期後半まで下る可能性も否定できない。

S P 017・012(第7図) 東区西側で検出した柱痕跡を残す柱穴である。S P 017は径50cm、深さ15



第9図 S P出土遺物実測図(18・19は1/1、20は1/4、21・22は1/3)



第10図 S C043(1/50)および出土土器実測図(1/3)

cm、柱痕跡径15cmの中型柱穴、S P012は径80～100cm、深さ40cm、柱痕跡径15cmの大型柱穴である。各柱穴から図化に耐えない弥生時代後期～古墳時代初頭の土器片が出土している。

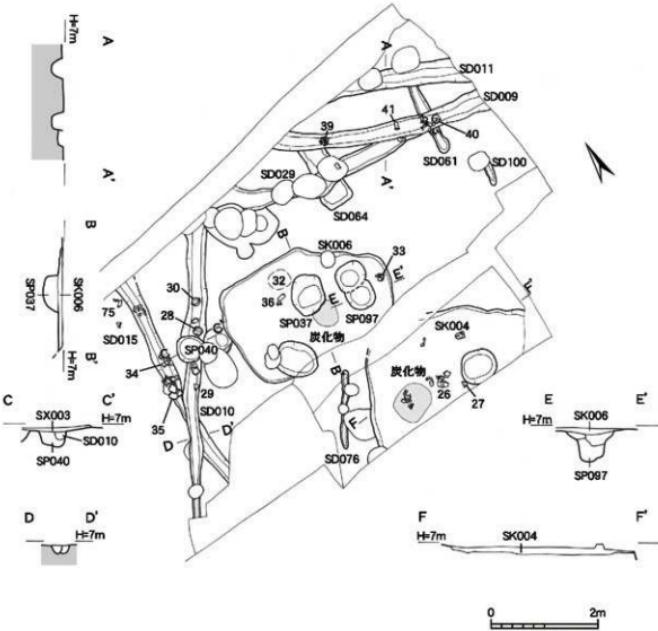
その他S P(第4・7・15図)と出土遺物(第8・9図) S P062は東区東側で検出した中型柱穴で、甕(5)が出土した。S P050は東区西側で検出した中型柱穴で、S P012に切られる。甕(6)が出土した。S P069は東区東側で検出した小型柱穴で、甕(7)が出土した。S P067は東区東側で検出した大型柱穴で、器台(8)が出土した。5～8は弥生時代中期後半・須玖Ⅱ式土器で、柱穴の埋没時期を示す可能性もあるが、柱穴埋没過程で周辺造構や上層の包含層から混入した可能性もある。

S P041は東区西側で検出した小型柱穴で、器台(9)が出土した。S P155は西区で検出した中型柱穴で、SK114を切る。甕(10)が出土した。S P143は東区西側で検出した中型柱穴で、甕(11)が出土した。S P036は東区東側で検出した中型柱穴で、高杯(12)が出土した。S P151は西区で検出した小型柱穴もしくはSD001に関わる溝底面の凹凸で、高杯(13)が出土した。S P046は東区西側で検出した小型柱穴で、高杯(14)が出土した。S P145は東区西側で検出した小型柱穴で、玄武岩石核(20)が出土した。大型の川原石を分割織として、側面部から横長剥片を連続剥離している。S P053は東区西側で検出した中型柱穴で、削器(22)が出土した。玄武岩横長剥片の末端側を両面加工して刃部としている。9～14は弥生時代後期後葉・下大限式～古墳時代初頭・西新式土器であり、環濠内側(東区)で検出された大半の柱穴群の時期を示すと考えられる。

S P122は西区で検出した小型柱穴で、土師器小皿(15)が出土した。S P125は西区で検出した中型柱穴で、土師器小型壺(16)が出土した。S P127は西区で検出した中型柱穴で、SD106・107を切る。土師器高台壺(17)が出土した。15は8世紀代、16・17は9世紀代の土器である。環濠外側(西区)で検出された柱穴の一部は、この時期を示すと考えられる。

2. 積穴建物 S C

S C043および出土遺物(第10図) 東区西側で検出した壁溝のみが遺存する1辺4.4mの方形積穴建物である。壁溝は幅20cm、深さ5cm前後と残りが悪く、床面や柱穴などの関連造構は確認できない。周辺の溝や柱穴に切られられており、本調査区では比較的古い造構となる。出土資料が少なく明確ではな



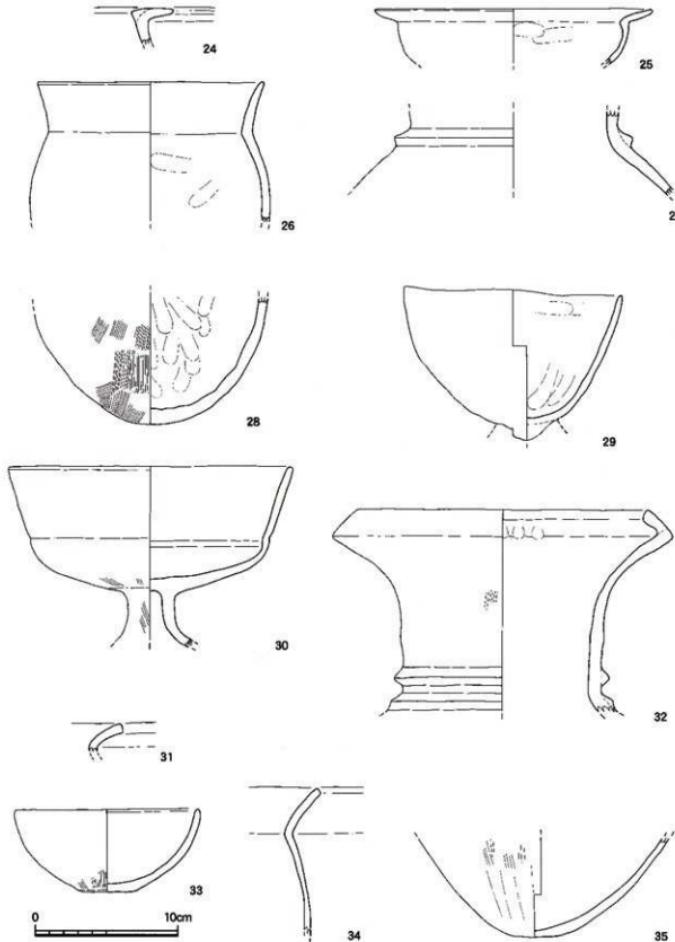
第11図 周溝建物実測図①(1/80)

いが、弥生時代後期前葉・高三瀬式の小型甕(23)が出土しており、集落の初期の遺構の可能性がある。

3. 周溝建物

小型竪穴とそれを囲んだ幅30~40cmの溝からなる遺構を周溝建物とする。調査区が狭く、相互の関連が明確でないため、便宜的に竪穴SK004・006・114とその周囲の溝を、それぞれを周溝建物1~3として報告する。また、遺構の大半が調査区外で竪穴との関連は不明であるが、円弧を描いていて、周溝建物に関わると考えられる溝については周溝1~4として報告する。

周溝建物1: SK004・SD010・011(第11図) 東区東側で検出した竪穴SK004と周溝SD010・011からなる。南側は大塚遺跡第11次調査で確認され、北西部・東部は今宿五郎江遺跡第2次調査の南側未調査区へ延びる。SK004は不整形な方形を呈し、長辺が3m、短辺が2.2m、深さが15cm残存する。竪穴内西側、床面からやや浮いた位置に厚さ1~2cmで堆積する炭化物層を検出した。東側で大型ピットを確認したが、周溝建物に関わるかどうかは不明である。SD010は、SK004西側に軸を合わせて走る小型溝である。幅25~30cm、深さ15~20cm、長さ5.5mが残る。不明瞭ではあ



24~27 SK004 28~30 SD010 31~33 SK006 34・35 SD015

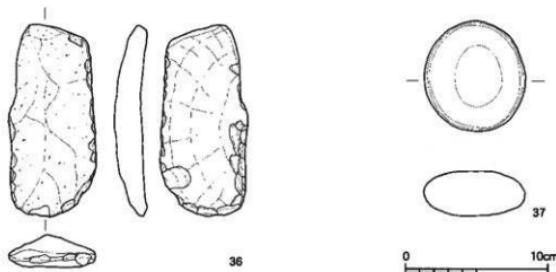
第12図 SK004・006・SD010・015出土土器実測図(1/3)

ったが、SD015を切っていると判断した。SD011も、SK004北側に軸を合わせて走る小型溝である。幅40cm、深さ20cm、長さ2.5mを残し、延長が調査区外となっているが、SD010と西側でつながる可能性がある。その他、SK004西側で検出したSD076もSD010と軸を合わせるが、関連は不明である。各遺構からは土器がまとめて出土している。

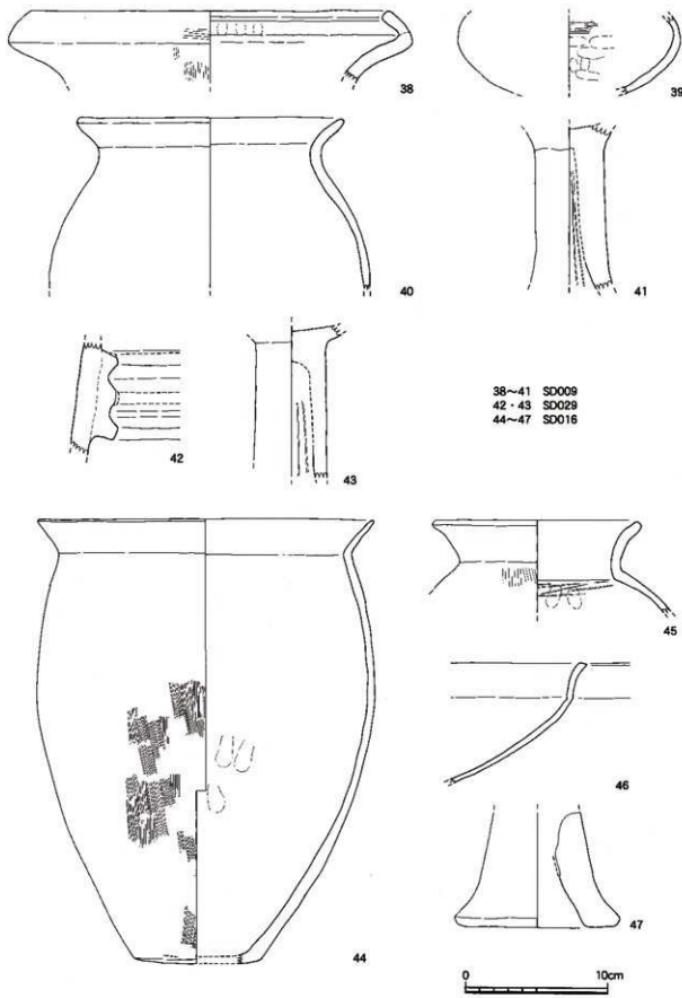
出土遺物(第12図) SK004からは、甕(24・26)、高坏(25)、壺(27)が出土した。この他、弥生時代後期末～古墳時代初頭の甕・壺・高坏小片、少量の弥生時代中期後半の甕小片がコンテナケース1箱分出土した。SD010からは、古墳時代初頭の甕(28)、鉢(29)、高坏(30)が出土した。29は底外面に貼り付けおよび剥離の痕跡が認められる。脚付もしくは尖底の鉢になる。30は坏部が直立気味に立ち上がって深く、脚部は広がって短い。この他、弥生時代中期後半～後期の土器小片がコンテナケース半箱分出土した。SD011からは、弥生時代後期末の土器小片が少量出土した。遺物から、これら遺構の時期は、古墳時代初頭と考えられる。周溝建物2よりもやや新しい様相がみられる。

周溝建物2：SK006・SD015(第11図) 東区東側で検出した堅穴SK006と周溝SD015・061からなる。SK006は、不整形の方形で、長辺3.2m、短辺2.1m、深さ5～10cmを測る。中央の床面直上で炭化物層を検出した。関連は不明だが、床面で4つの中・大型ピットを検出している。SD015はSK006の西側で軸を合わせて走る小型溝である。幅30cm、深さ15～20cm、長さ4mを残す。不明瞭ではあったが、SD010に切られていると判断した。SD061はSK006の東側で軸を合わせて走る小型溝である。幅20～25cm、深さ3～7cmと残りが悪いが、SD015とも平行しており、一連の遺構であった可能性がある。SD011・009に切られる点も矛盾はない。この他、SK006北側で検出したSD064・100もSD061と軸を合わせるが、関連は不明である。各遺構から土器がまとめて出土した。

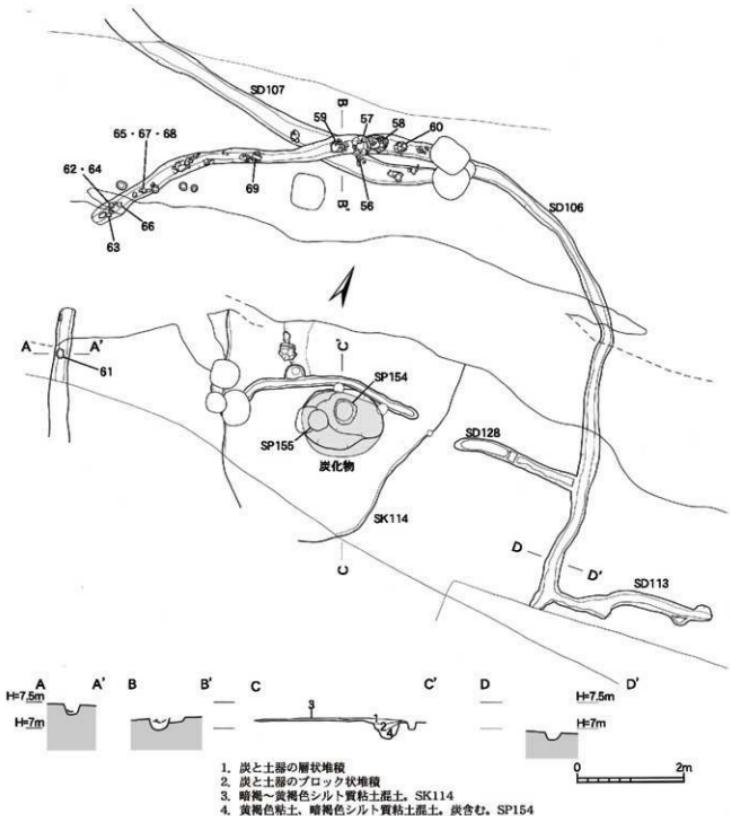
出土遺物(第12・13図) SK006からは、弥生時代後期後半・下大限式の甕(31)、袋状口縁壺(32)、鉢(33)、玄武岩製大型刃器(36)、小型磨石(37)が出土した。36は横長剥片の縁辺に最低限の二次加工を施して短冊状に成形している。全体に風化が強く詳細は不明だが、二次加工は急角度の剥離で鋭利な刃部作出というよりは全体の成形を目的としており、上辺は素材の直線的な形を活かし、下辺を平面円形に成形していることから、ここを使用部とした可能性が高い。この他、弥生時代後期末～古墳時代初頭の甕・壺・高坏小片、少量の中期後半甕・壺小片がコンテナケース1箱分出土した。SD015からは、弥生時代後期末～古墳時代初頭・西新式土器の甕(34・35)が出土した。遺物から遺構の



第13図 SK006出土石器実測図(1/3)



第14図 SD009・029・016出土土器実測図(1/3)



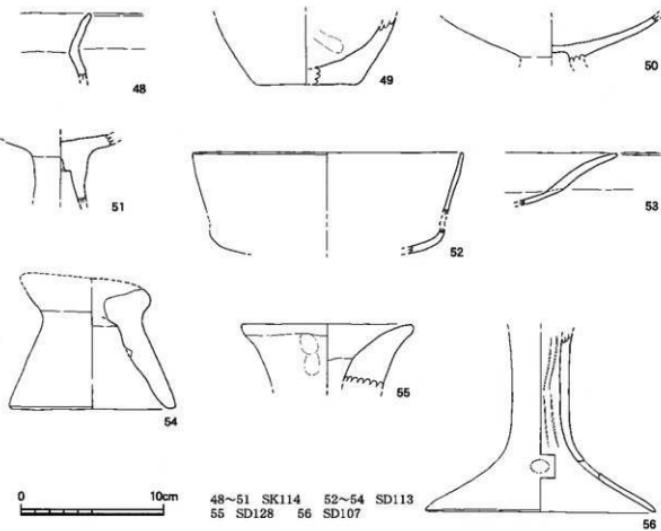
第15図 周溝建物実測図②(1/80)

時期は弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられる。周溝建物1よりもやや古い様相を持つ。

周溝1：SD009(第11図) SK006北側で検出した幅30～40cm、深さ20cmを測る小型溝である。円弧を描いており、北側の調査区外へ延長していく。SD029を切る。土器がまとまって出土した。

出土遺物(第14図) 弥生時代後期の袋状口縁壺(38)、古墳時代初頭の甕(40)・小型丸底壺(39)・高杯(41)が出土した。この他、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器小片がコンテナケース半箱分出土した。

周溝2：SD029(第11図) SK006北側で検出した幅35cm、深さ20cmを測る小型溝である。円弧を描いており、北側の調査区外へ延長していく。SD009に切られる。土器がまとまって出土した。



第16図 SK114・SD113・128・107出土土器実測図(1/3)

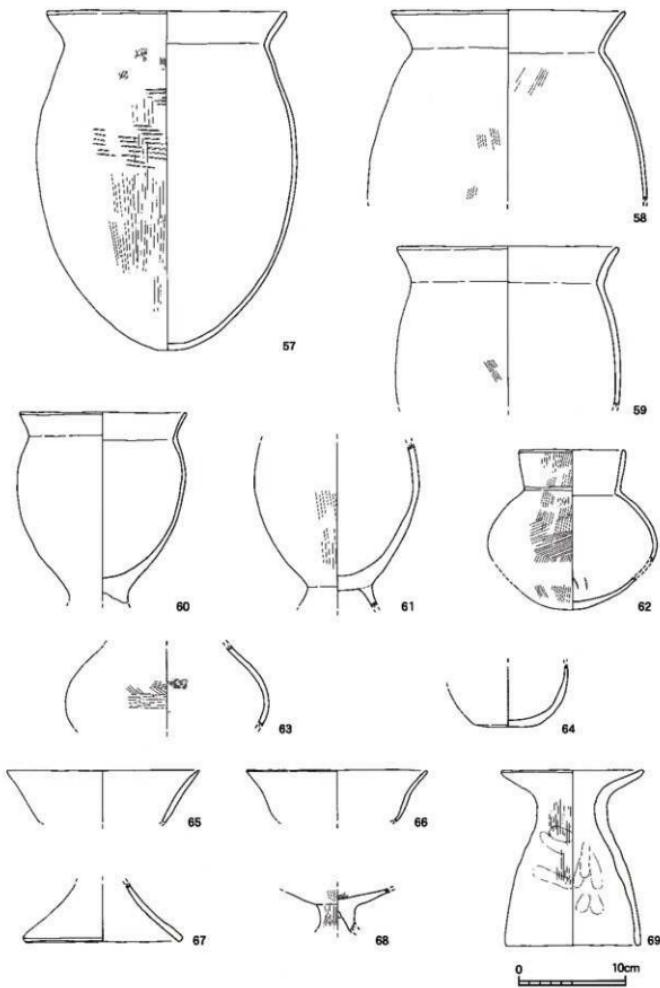
出土遺物(第14図) 弥生時代後期半の高坏(43)、立岩式の大甕(42)が出土した。この他、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が出土した。

周溝3：SD016(第4図) 東区西側で検出した幅40～50cm、深さ10～35cmを測る小型溝である。円弧を描いており、北側の調査区外へ延長する。SC043を切る。土器がまとまって出土した。

出土遺物(第14図) 甕(44)、壺(45)、高坏(46)、器台(47)が出土した。44は口縁部と胴部が接合しない同一個体を図上復元している。46は、口縁部が短く、端部が平坦をなす。弥生時代後期半・下大限式土器を主体とする。この他、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が出土している。

周溝建物3：SK114・SD106・150・128・113(第15図) SK114は西区SD001下で検出した不整形堅穴で、1辺4.5mほど、深さ2～8cmが残る。中央の径1～1.5mの範囲に炭化物層が堆積し、その下に、径45cm、深さ35cmのピットSP154が設けられる。埋土は、SK114とSP154最下層が同質の暗褐・黄褐色シルト質粘土混土で、SP154中・上層に炭と土器片が堆積する。SK114の周囲直径約10mを隅丸形状にSD106がめぐる。南側は大塚遺跡第11次調査で調査されている。幅30～35cm、深さ10～25cmを測り、溝底面は西から東へ傾斜する。SD107を切り、SD128・113と連結する。SD150・128・113は、幅20～30cm、深さ10～20cmとSD106より小型で、西から東へ連なり、傾斜する。周溝周辺の水は、SD106・150・128・113を経由して、東側の環濠へ排水されたと考えられる。SK114とSD106から土器がまとめて出土した。

出土遺物(第16・17図) SK114からは、弥生時代後期の甕(49)、古墳時代初頭の甕(48)、高坏(50・51)が出土した。この他、大甕の幅広低突帯の胴部片など、弥生時代中期後半～後期の土器小



第17図 SD 106出土土器実測図(1/4)

片がコンテナケース1箱半分出土したが、遺存状態が悪く、図化に耐えるものは少ない。SD106からは、古墳時代初頭の甕(57・58・59)、脚付甕(60・61)、小型甕(64)、直口甕(62・63)、高坏(65～68)、器台(69)が出土した。SD113からは、下大限式の高坏(52・53)、支脚(54)が出土した。52は口縁部と体部が接合しない同一個体を図上復元している。SD128からは、器台(55)が出土した。遺物から遺構の時期は、古墳時代初頭と考えられる。

周溝4：SD107(第15図) SK114北側で検出した幅30～45cm、深さ10cmを残す小型溝である。西側は今宿五郎江14次調査区へ延びる。SD106に切られる。

出土遺物(第16図) 弥生時代後期末の高坏(56)が出土した。この他、弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器が出土している。

4. 土坑SK

SK007(第18図) 東区中央北側で検出した長軸1.2m、短軸0.8m、深さ20cmの梢円形土坑である。西側底面付近に甕底部片、磨石、砥石がまとまって出土した。外来系土器と思われる小片も出土しており、墓や祭祀土坑など特殊な性格が予想される。

出土遺物(第18図) 弥生時代中期の甕(70)、磨石(71)・砥石(72)が出土した。72は前面のみが使用面であるが、風化・付着物によって砥ぎ痕など詳細が不明である。この他、焼成が他と異なり、灰色に発色した軟質土器小片が1点出土した。胴部小片で摩滅が著しく図化し得ないが、比較的厚手で器種は甕・壺・鉢と考えられる。三輪系土器の可能性がある。この他、弥生時代中期～後期末の土器小片が少量出土した。遺物から遺構の時期は弥生時代後期末と考えられる。

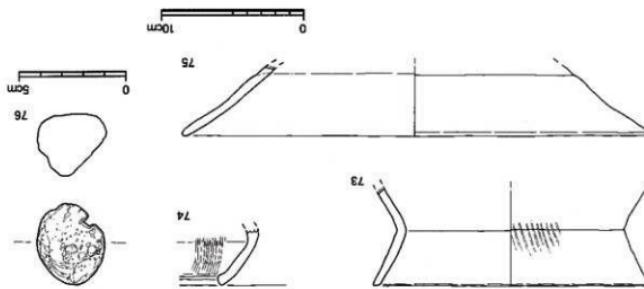
SK034(第4図) 東区中央北側で検出した不整形土坑で、深さ10cmを測る。比較的多くの遺物が出土し、周溝建物の豊穴の可能性もあるが、周囲に関連しそうな円弧溝がみられず、遺構の大半が調査区外であるため、性格は不明である。

出土遺物(第19図) 古墳時代初頭の小型甕(73)、甕(74)、高坏(75)、軽石製浮子(76)が出土した。この他、図化に耐えない弥生時代中期～古墳時代初頭の土器小片が少量出土した。

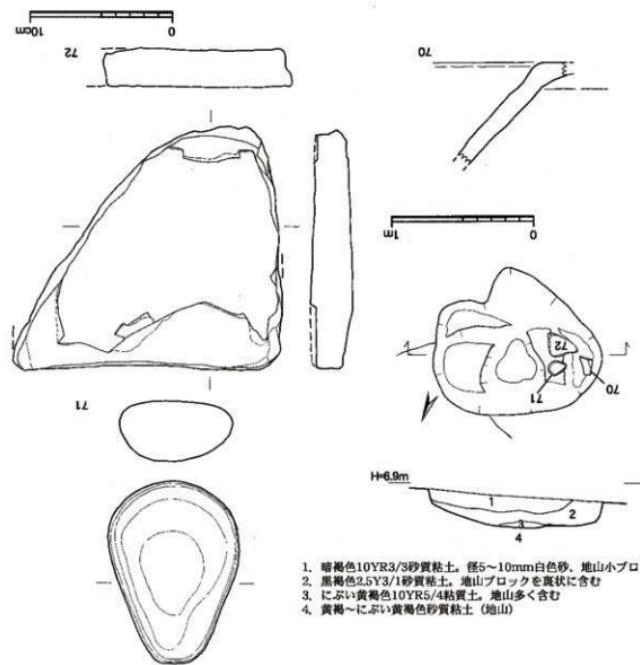
5. 環濠SD

SD120(第20図) 調査区中央で検出した、幅6m、深さ1.2mの断面逆台形の溝で、弥生時代後期環濠である。調査区南側の大塚遺跡第11次調査区から北西方向へ延び、本調査区内で北方向へ向きを変え、調査区北側の今宿五郎江12次調査区へと延びていく。また、大塚遺跡第11次調査区から北西方向へ延びてきた溝SD170が、本調査区で環濠SD120と合流する。溝の立ち上がりは、西側が傾斜角度20°であるのに対し、東側は傾斜角度55°と急で、その上端から2m東は地山が40cmほど高くなっている。この部分には遺構が形成されない。溝内の堆積は、下から4層(中砂・有機物層の細かい互層)→3層(細砂層)。木器出土)→2層(黒色土層。人頭大花崗岩礫含む)→1層(粗砂層)と分けて、遺物を取り上げた。整理・報告ではこの分層名をそのまま用い、第20図の土層名とは4層-6a・b層、3層-5a～c層、2層-4a～j層、1層-3層という対比になる。4層は環濠形成初期の堆積層で、底面幅が2mで平坦をなし、削られた地山ブロックを含む砂層であることから、恒常に水が流れている状態と考えられる。3層は4層と同様に断面逆台形の溝だが、4層よりも粘質土の比率が高くなり、流水が滞りがちになったと考えられる。有機物層として特徴づけられ、小枝・種子等に混ざって木質遺物が出土した。北側と東側の土層観察用ベルトから堆積土を400ほど採取し、洗浄して種実遺体を抽出した。これについては同定分析を行っている(本書第V章第3節)。2層は3層よりも砂質で地山を削った土が多く混在し、堆積が複雑となる。平面では把握できなかったが、土層断面をみると、水平堆積とは異なる不整合面がみられるため、溝の掘り直しが行われている可能性がある。土器

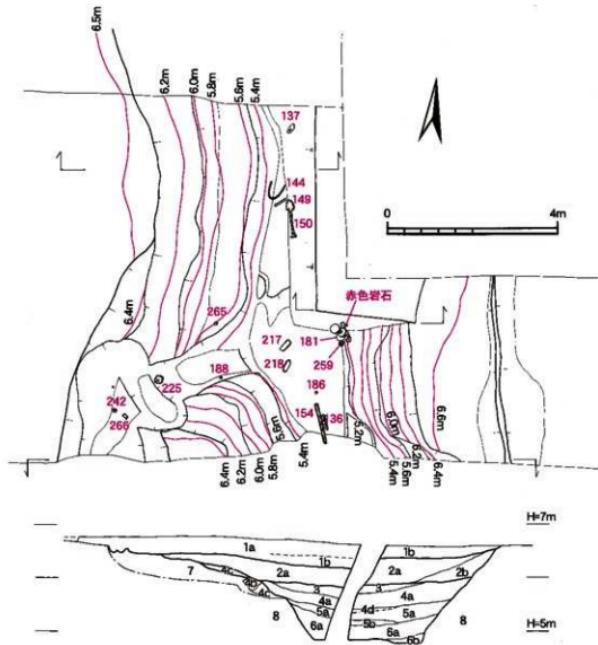
第19図 S-K034出土土器実測図(76.11.2. 地11.1/3)



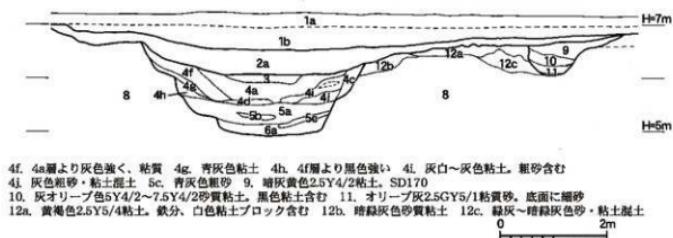
第18図 S-K007(1/30)出土土器実測図(1/3)



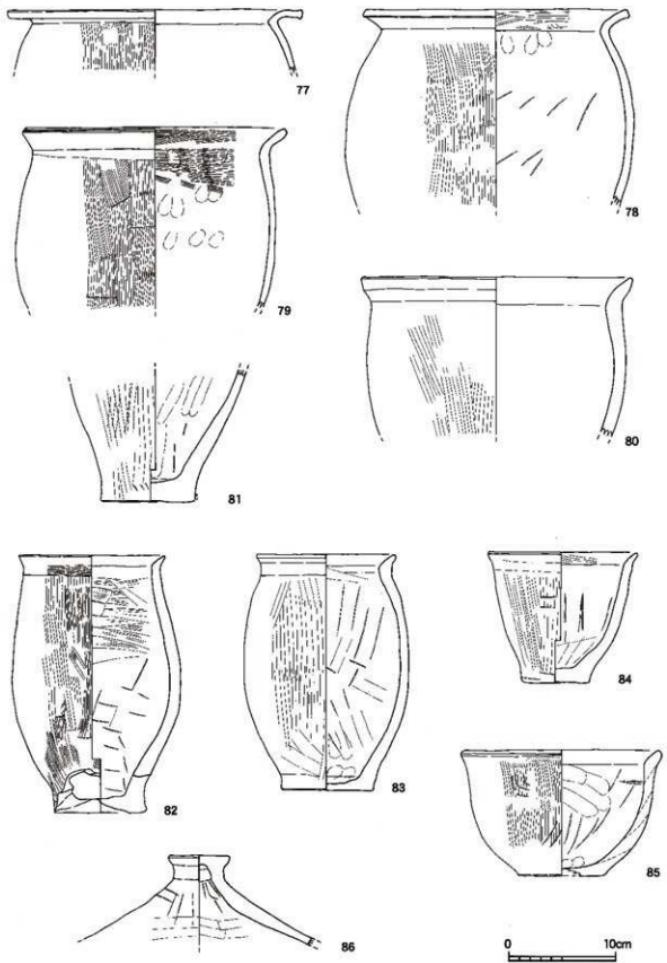
1. 暗褐色10VR3/3砂質粘土。径5~10mm白色砂、地山小ブロック含む
2. 黒褐色2.5Y3/1砂質粘土。地山ブロックを瓦状に含む
3. にぶい黄褐色10YRS/4粘土。地山多く含む
4. 黄褐色～にぶい黄褐色砂質粘土。(地山)



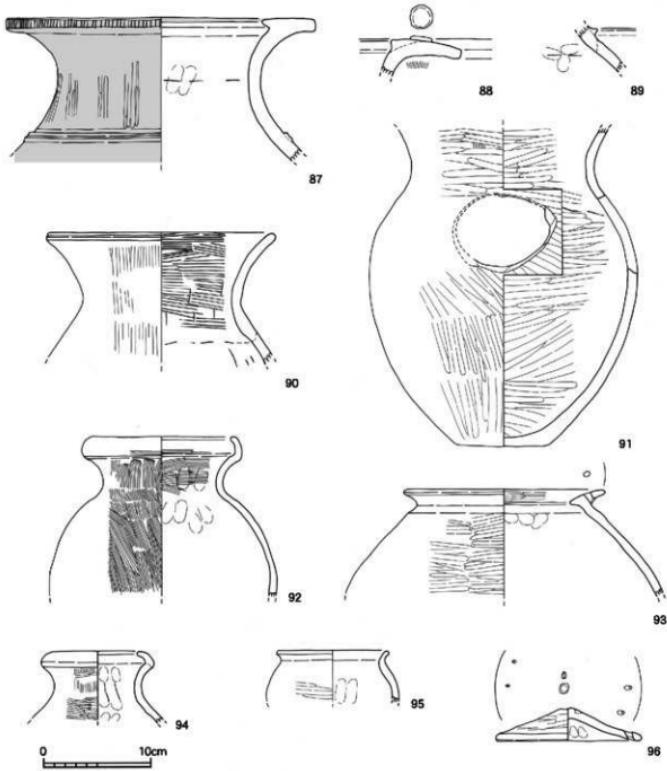
- 1a. 黄褐色10YR4/1～黄灰色2.5Y4/1シルト質粘土。SX002
 2a. 黒色1.5/1シルト質粘土。鉄分、細砂少い。SD090
 2b. 黄灰色砂質粘土。機、混合む
 3. 細～中砂と黒色砂質粘土の互層。SD120・1層 4a. 黄灰色2.5Y4/1粘土。細～中砂含む。SD120・2層
 4b. 黒色シルト質粘土。中砂含む 4c. 黄灰～青灰色中砂・粘土混土 4d. 黄青～灰色細砂～中砂
 4e. 黄灰色シルト質粘土と細砂混土。SD130 5a. 黄褐色砂質粘土。細～中砂含む。SD120・3層 5b. 白灰色中～粗砂
 6a. 喀灰～黄灰色細～中砂の互層。機、黒色土多い。SD120・4層 6b. 6a層と砂礫の混土
 7. 粘土と粗砂の複雑な互層状構造。無遺物層 8. 青灰色粘土質砂～粘土～砂礫層(地山)



第20図 S D 120・170実測図(平面1/100、土層1/80)

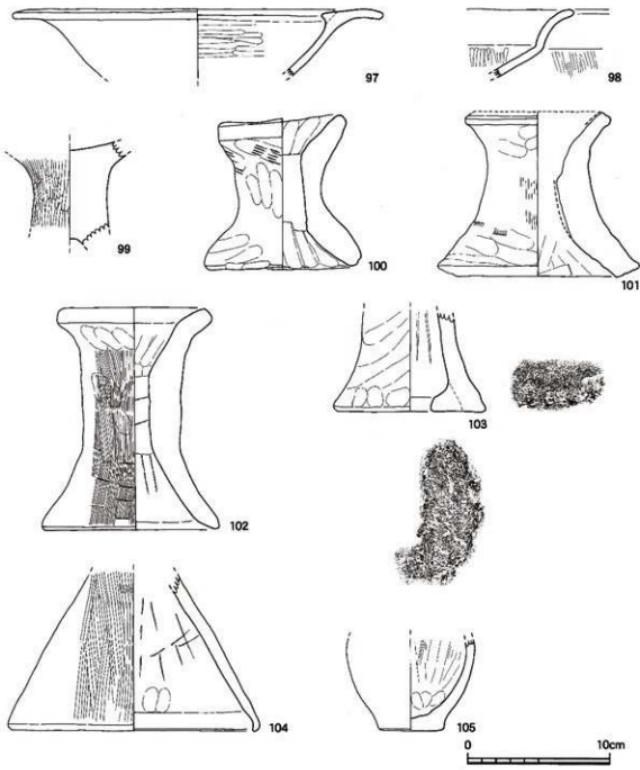


第21図 S D120・4層出土土器実測図①(1/4)



第22図 SD 120・4層出土土器実測図②(1/4)

・石器・鉄器・土製品・赤色岩石など多様な遺物が出土している。また、西側に堆積した4e層は一連のものと考えられるが、平面的にも分層可能であったため、SD 130として遺物を取り上げている。なお、本層の珪藻化石群集は、様々な環境に生育する珪藻化石が混在する混合群集であり、海水期を挟みながら、周囲の表層土壤が雨水等によって流れ込む堆積環境であったと推定される(本書第V章第3節)。1層は砂層で、堆積としては2層と一連であるが、環濠内最上層として、遺物を分けて取り上げた。地山は、環濠底面から1mでは青灰色砂質粘土で安定した堆積だが(第20図土層8層)、その上に粘土と砂の互層が複雑に堆積する(第20図土層7・12層)。この層についてはサブトレ

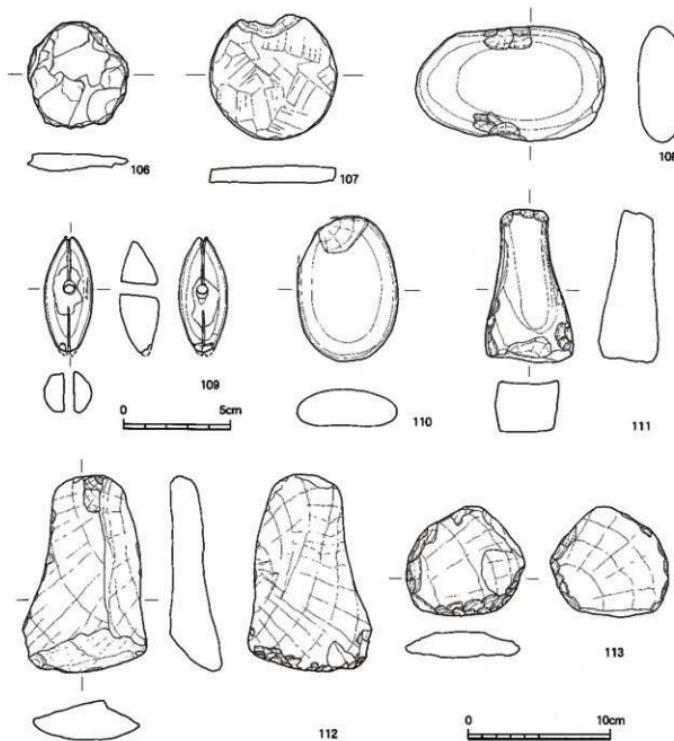


第23図 S D 120・4層出土土器実測図③(1/3)

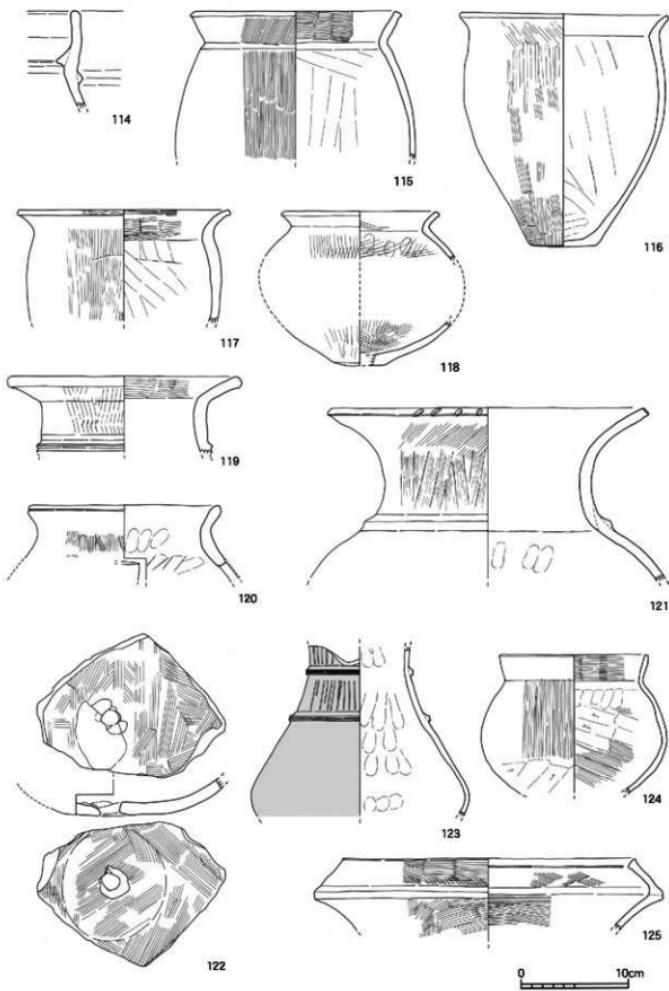
ンチを入れて遺物が含まれないことを確認した。

4層出土遺物(第21~24図) 土器は、甕(77~81)、小型甕(82・83)、鉢(84・85)、蓋(86)、各種壺(87~95)、無頬壺蓋(96)、高坏(97~99)、器台(100~102)、支脚(103・104)、小型鉢(105)が出土した。80は口縁部内面から肩部外面向にかけてわずかに丹が残る。82は底部立ち上がり部分に焼成後穿孔が施される。SD 170との合流付近から出土した。83はほぼ完形で、欠損した口縁部~肩部1/3は打ち欠きの可能性がある。88は口縁部上面に径2cmほどの粘土円盤が貼り付けられる。89は壺肩突部で、胎土に金雲母が目立ち、色調は橙色を呈す。87は、頸部に1~1.5cm幅の縦位集線暗文が1.5

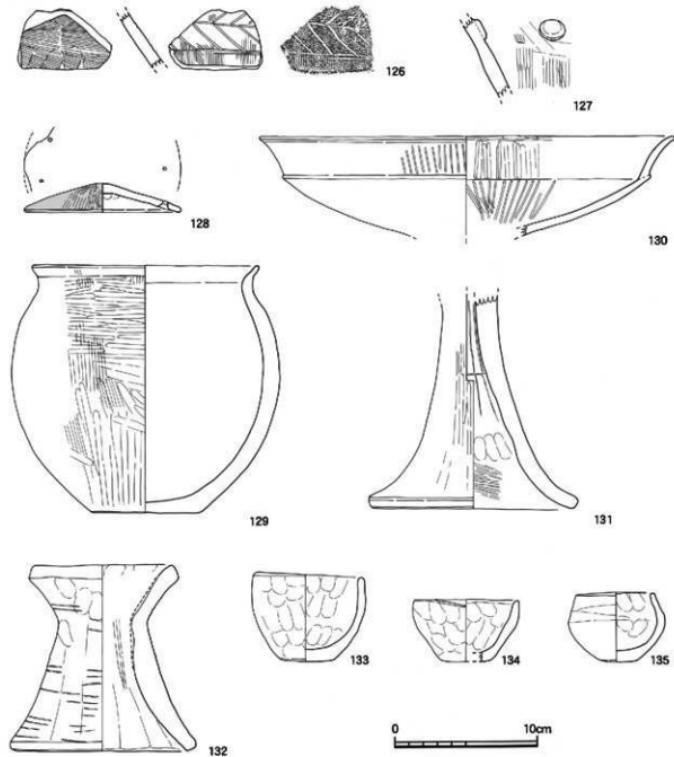
~2cm間隔で施され、口唇部上面から外面に丹が塗布される。90は内外面を丁寧なハケメ調整後、丹塗りとしている。91は内外面を丁寧なハラナデで仕上げ、肩部に径7~9cmの焼成後打ち欠き孔を有す。93は大型の無頸壺で、口縁部内面から胴部外面にかけて丹が塗布される。94は小型袋状口縁壺で、外面にわずかに丹を残す。96は無頸壺蓋で、頂部に凹みや、横方向からの浅い刺突などがみられる。摘み部を意識した成形痕跡であろうか。胎土は金雲母が目立つ。97は内面に丹がわずかに残る。102は外面を丁寧なタテミガキで仕上げ、わずかに丹の痕跡がみられる。77・81は最下面、94・95・96・101はSD120・3層との境、100はSD170との境から出土した。丹塗り土器が含まれ、後期前葉・高三浦



第24図 SD120・4層出土石器実測図(106~109は1/2、他は1/3)



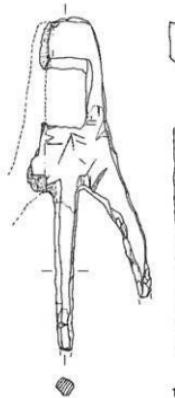
第25図 S D 120・3層出土土器実測図①(1/4)



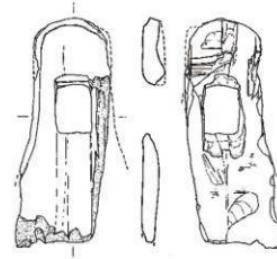
第26図 S D 120・3層出土土器実測図②(1/3)

式土器の古相を主体とする。

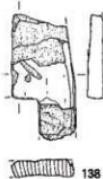
石器は、紡錘車未成品(106・107)、石鍤(108・109)、磨石(110)、砥石(111)、玄武岩製大型刃器(112)、円盤形石器(113)が出土した。106は剥離成形段階のもの、107は研磨成形段階のもので、107は前後面・側面に幅4~8mmの削り痕が残る。108は下端に浅い潰れ痕が認められるため、縦方向で使用したと推定される。109は下端に小剥離が認められ、水底着地時の衝撃によると推定される。111は前面のみを使用しており、上端は破断後、縁辺を再調整して小型低石に再生している。112・113は剥片の縁辺に両面加工と片面加工を施し、搔器・削器両方の機能を有している。



136



137



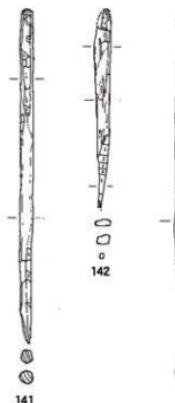
138



139



140

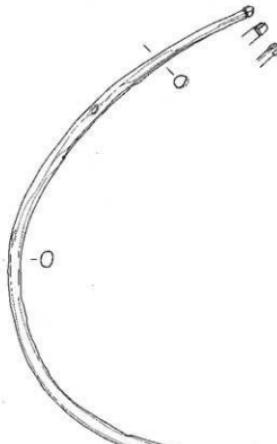


141



142

143



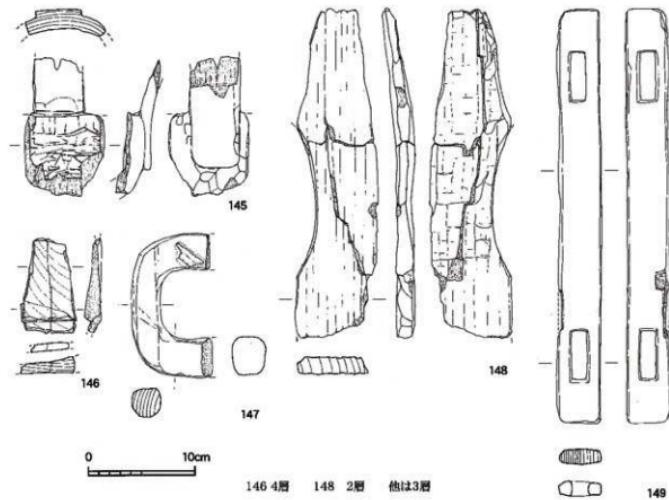
144

0 10cm

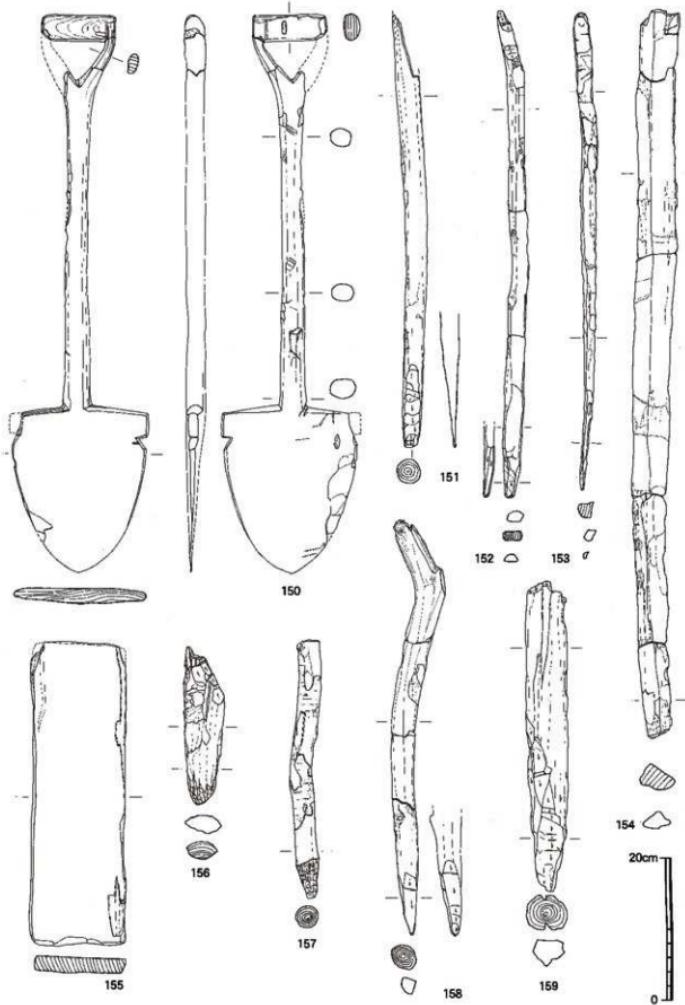
第27図 S D 120・3層出土木器実測図①(1/4)

3層出土遺物(第25~30・42図) 土器・土製品は、壺(114~117)、各種壺(118~127・129)、無頭壺蓋(128)、高坪(130・131)、器台(132)、小型鉢(133~135)、管状土錐(257)が出土した。120は肩部に方形の透かし窓が焼成前成形で付けられる。122は底部が焼成後打ち欠きで穿孔される。121は口唇部にヘラ状工具による刻みが施される。124は短頸壺で、胴部下半の外面をケズリ、内面をケズリ風の強いハケメで仕上げる。127は壺肩部で、径1.5cmほどの粘土円盤が貼り付けられる。129は外面を粗いミガキで仕上げ、わずかに丹の痕跡が残る。131は外面にわずかに丹塗りの痕跡が残る。132は外面に横位平行タタキ痕が残る。これらは弥生時代後期中頃~後半・下大隈式を下限として、弥生時代中~後期土器が含まれる。257は土師質の土錐で、上層からの混入と考える。

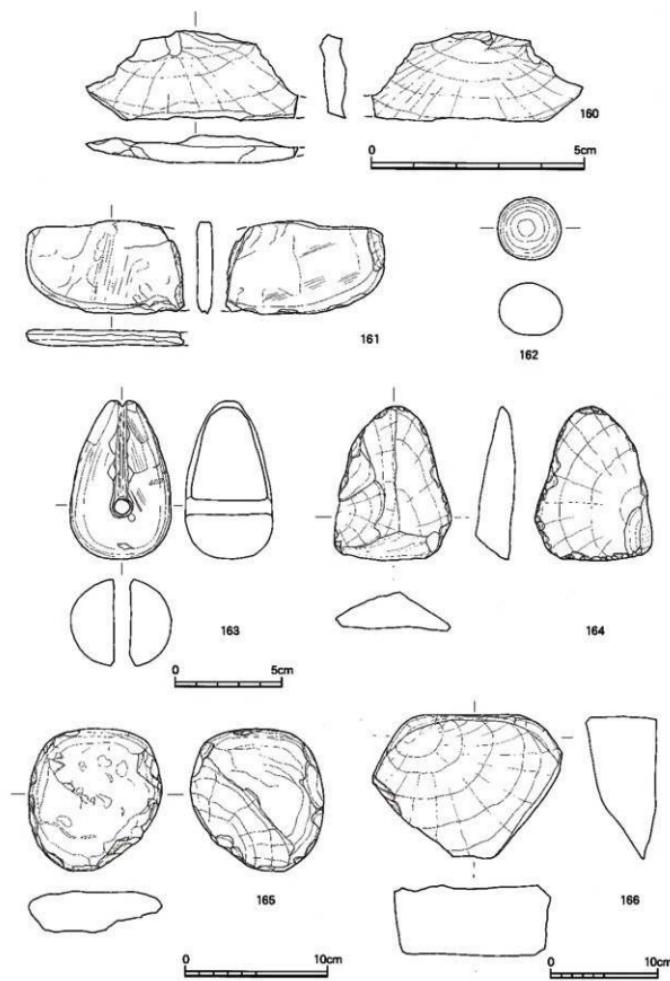
木器は三叉鍬(136)、鍬(137・138)、板状木製品(139・140)、刺突具(141・142・153)、堅杵(143)、たも棒(144)、掬い具(145・146)、容器把手(147)、組み物部品(148)、案部品(149)、一本釣(150)、掘り棒(151・152)、分割材(154)、板材(155)、分割棒材(156)、棒材(157)、杭(158・159)が出土した。138は樹種・木取から鍬と想定するが、柄孔に傾斜がつかないため、他の器種の可能性もある。140は放射方向に長い柾目取り板材で、先端が片刃状になっており、圧痕等の痕跡はみられないが小型櫻の可能性がある。141は完形品で、先端に向て棒状に削った加工痕が全体に認められる。先端は片べら状に加工され丸みを帯びている。刺突具もしくは掘申などの用途が想定される。142は体部断面形が扁平で先端が断面方形へ三角形に削られて尖る。141よりも先端が尖っており、刺突具の可能性が高い。143は芯持ち丸木の末端を面取りして収めており、堅杵の柄部と考えられる。144は一端を頭部状に削り出して、紐掛け部としている。147は鍬把手にも似るが、木取りから



第28図 S D 120・2~4層出土木器実測図(1/4)



第29図 SD 120・3層出土器実測図②(1/6)



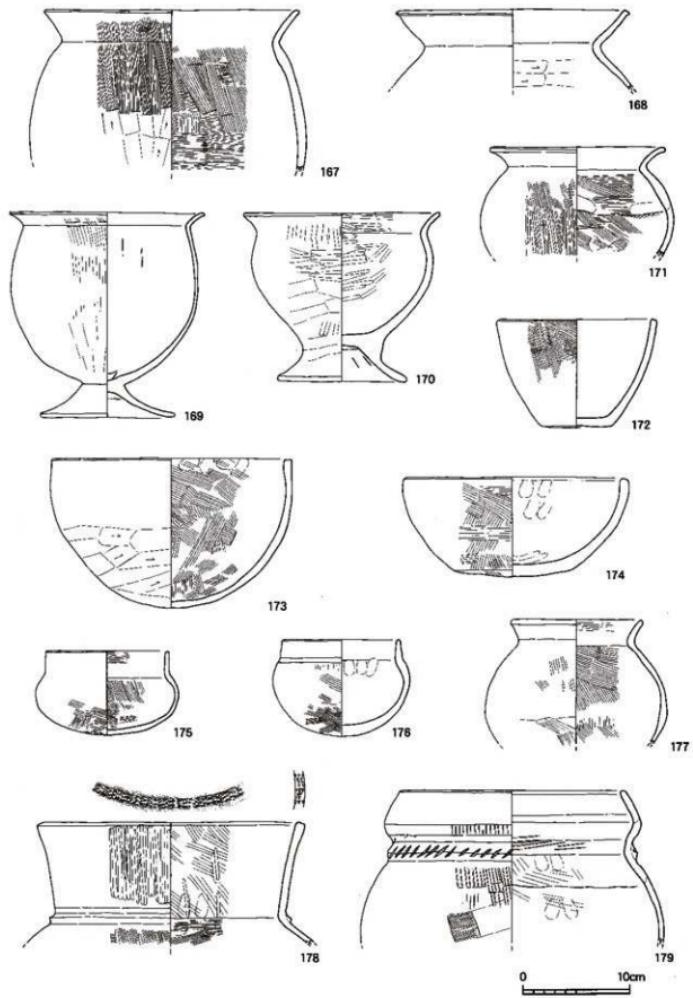
第30図 SD 120・3層出土石器実測図(160は1/1、161～163は1/2、164・165は1/3、166は1/4)

容器の把手の可能性が高い。148は側辺に浅い半円形の透かしが施された大型の組み物部品で、片面が焼けて炭化している。150は板目取り一本作りの鎌で、鎌部の両側に「フ」字状の切り込みがある。断面形はほぼ対称形だが、わずかに平坦な方を前面とし、わずかに丸みをおびる方を後面として、図化している。刃部の明確な使用痕は観察できない。151は棒材の下端を前後面から平坦に削り、断面V字状の刃としている。刃部は摩耗して丸みをおびる。152は芯持ち丸木材の前後面を面取りし、先端を尖らせている。先端は磨滅している。153は分割材から方柱状の材を取り、上端を丸く收め、下端を鋸く尖らせている。ヤスのような刺突具が考えられる。156は上端の木表側が先端に向かって粗く削られ、下端は焼かれて炭化している。157は樹皮を残す棒材で、上端は切り落とされ、下端は焼かれて炭化している。158は下端を粗く削り、上端は枝分かれ部分を切り落とし、末端は折り切って収められる。159は下端が粗く削られ、上端は折り切られた状態で、上下端とともに焼かれて炭化している。

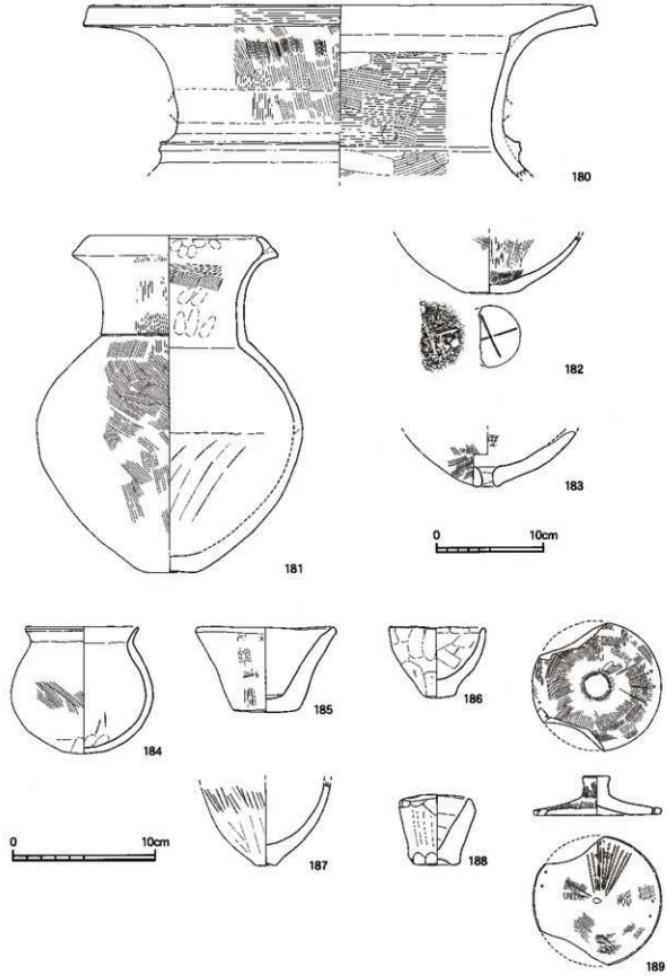
石器は、小型横長剥片(160)、石庵丁未成品(161)、投彈(162)、石鍬(163)、玄武岩製大型刀器(164)、円盤形石器(165)、分割素材礫(166)が出土した。163は下端に使用に伴うと考えられる浅い潰れ痕跡が認められる。164は横長剥片の末端長辺に両面加工を、側短辺に片面加工を施しており、搔器・削器両方の機能を有した刃器と考える。165は、小型の扁平な川原石の縁刃を加工している。166は角柱状の原石を荒削りしたものである。

2層出土遺物(第31~33・35~38・42図) 土器は、甕(167・168)、脚付甕(169・170)、鉢(172~174)、各種壺(171・175~183)、小型壺(184)、小型鉢(185~188)、小型蓋(189)、高坏(190~192)、器台(193~195・197)、支脚(196・198・199)、小皿状土製品(259)、円錐状土製品(258・260)、匙形土製品(261)、円盤形土製品(262)が出土した。167は胴部下半をタテケズリで仕上げる。170は脚部周の対向する2ヶ所が打ち欠かれている。173は胴部外面下半をケズリで仕上げる。174は胎土に金雲母を多く含む。178は大型の直口壺で、頸部外面は暗文風のタテミガキで仕上げ、口唇部にはヘラ状工具による刺突文を施す。179は頸部に低い断面三角形突帯をめぐらし、その上にヘラ状工具による連続短斜線文を施す。182は外面を丁寧なナデで仕上げ、底外面に焼成後沈線文「×」が認められる。183は、底部中央に焼成前の円形孔が穿たれる。187は丸尖底で底部が凹む形状をなし、外面をタテヘラナデで仕上げる。器種不明だが、ここでは小型鉢としておきたい。188は、高坏脚部の付け根部分を再加工し、反転して小型鉢としたものと考える。SD170と重複する位置から出土した。189は小型の蓋で、天井の揃みと据の紐綴じ孔を有し、外面ハケメは規則的で文様効果をもたらしている。192は小型高坏の脚部で、外面にわずかに丹が残る。190は裾部でもより簡便の位置に4つの大きめの穿孔がある。191は高坏脚部の裾を打ち欠き成形した再加工品で、5ヶ所の穿孔がある。199は奇形支脚で、突起部が剥落している。259は、小皿状の形態で中央に円形の台を設けており、全体をミガキ後ナデで丁寧に仕上げている。258は、高坏脚部状に成形し、頂点部分を平坦に仕上げた形状をなす。器種不明だが、蓋や支脚の可能性も考える。260は、支脚状を呈した土製品で、天井外面はやや凹む。外面には区画沈線文が施され、上段は有輪羽状文、下段は横位平行文と斜線文からなる変形の斜格子文となる。262は甕丸底部を円盤形に再加工している。

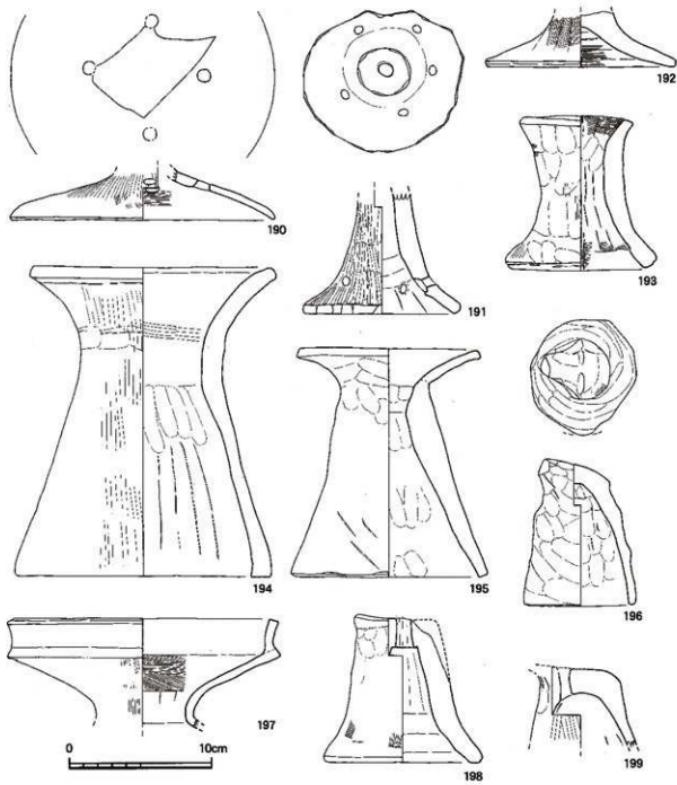
石器は、軽石製浮子(207~210)、石鍬(212)、石錐未成品(213)、砥石(214・215)、大型始刃石斧(216)、大型砥石(217・218・219)、礫石鍬(220~225)、石核(226)、玄武岩製大型刀器(227~229)、磨石(230・231)、敲石(232~234)が出土した。213は、幅2mmほどの工具で擦り切ながら粗く成形した痕跡が残る。214と215は同一個体で、角柱状で4面砥面とし、溝状の砥ぎ痕跡が認められる。217・218は大型扁平な川原石を長方形に打ち割り、前後面と打ち割った面を粗く研磨成形し



第31図 SD 120・2層出土土器実測図①(1/4)



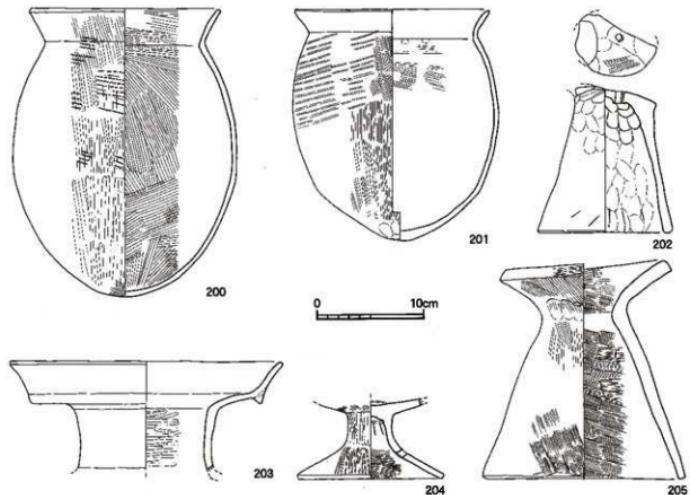
第32図 S D 120・2層出土土器実測図②(180～183は1/4、他は1/3)



第33図 S D 120・2層出土土器実測図③(1/3)

た未使用品である。219は片面のみに幅広で浅い底面が形成され、一短辺が打ち欠かれている。220～224は縁辺に浅い凹みを設けて紐掛け部としている。226は大型の川原石から得た分割素材砾から小型の横長剥片を剥離している。227・228は横長剥片の縁辺に両面・片面加工を施した削器・搔器である。232・233は後面に磨面も形成される。234は前後面の同じ位置に同じ大きさの敲打痕が残る。この他、花崗岩の風化礫と考えられる赤色岩石片が少量ながらも集中して出土している(本書第V章第2節)。

鉄器は、铸造鉄斧(265)が出土した。側辺が平行する中型斧で、後面が欠損する。基部前面に幅2



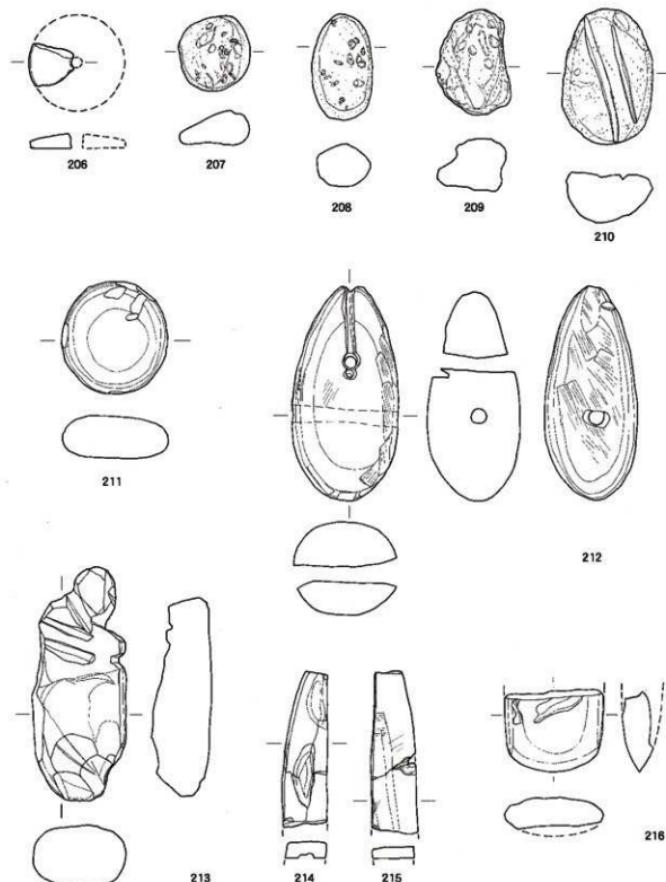
第34図 SD 120・1層出土土器実測図(1/4)

mm・高さ1mmの突帯が2条付けられる。後面の断面は風化面となっており、刃部が丸く潰れていることから、後面破損後、斧とは別の用途で刃部を使用し続けたと考える。SD 170と重複する位置から出土した。

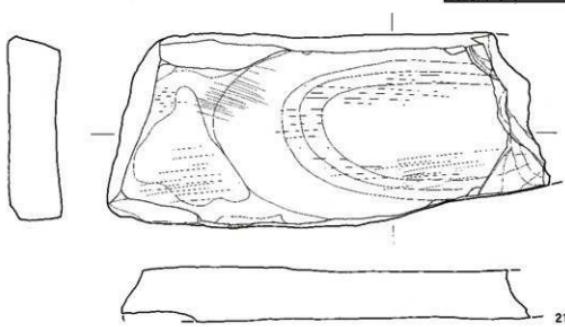
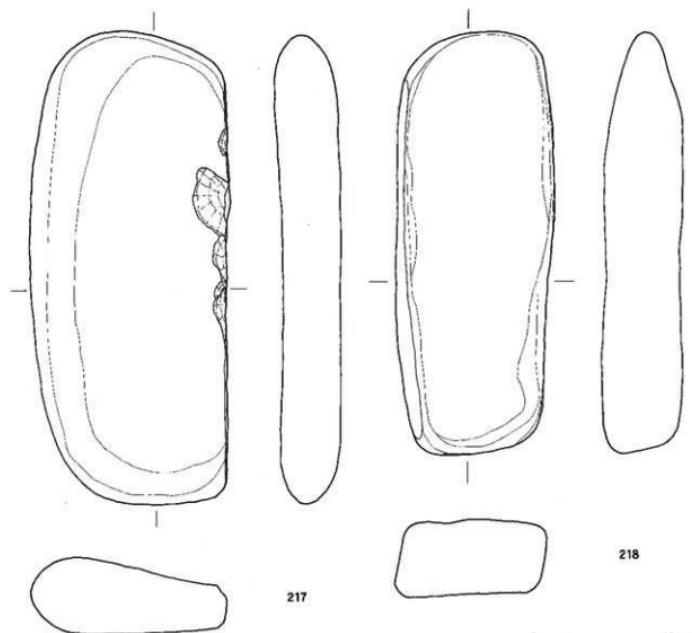
以上より、遺物の下限時期は弥生時代後期末・下大限式新段階～古墳時代初頭・西新式古段階と考えられる。2層はSD 170上層とともに、鋸部を打ち欠いた脚付甕や底部線刻土器、底部穿孔土器、ミニチュア土器、土製品、鍛造鉄斧、赤色岩石など、特殊遺物の出土を特徴とする。

1層出土遺物(第34・35図) 甕(200・201)、壺(203)、高壺(204)、器台(205)、支脚(202)、石製鋸車(206)、石製投弾(211)が出土した。201は外面上半にタキ痕を残す。204は鋸部に焼成前穿孔が3ヶ所認められる。206は復元外径4.45cmを測る。遺物の時期は弥生時代後期末～古墳時代初頭・下大限式～西新式土器であり、環濠SD 120の下限時期を示すと考えられる。

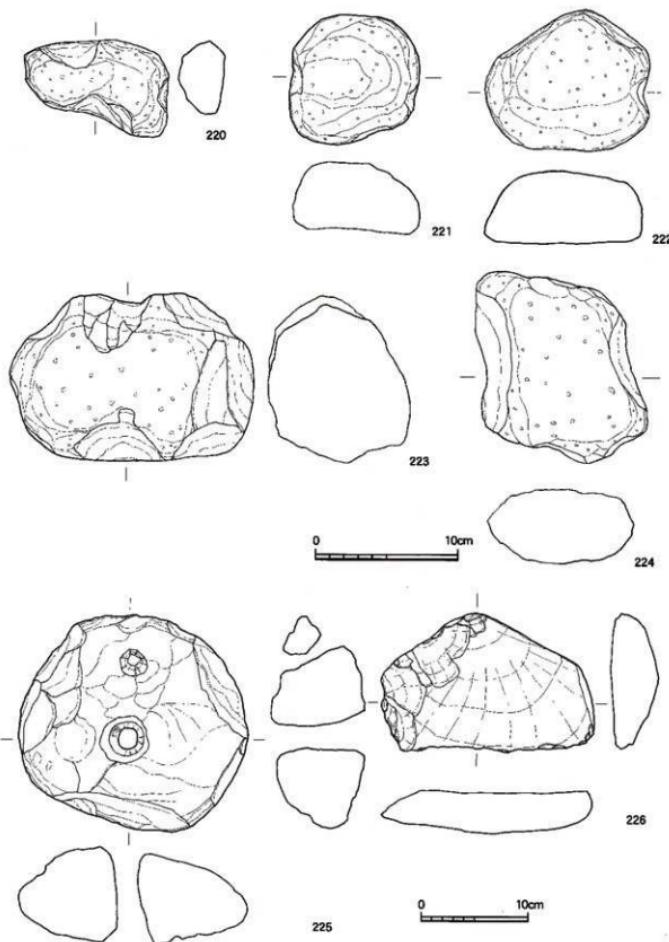
SD 170(第20図) SD 120と合流する、幅2.5m、深さ60cmを測る断面U字形の溝である。南の大塚遺跡第11次調査区から北北西方向へ走ってきた溝が、径2～3mの浅い凹みを介して、北東方向へ向きを変えてSD 120へ合流する。掘削の当初は、SD 120が平面的に西側へ張り出しているという認識で、「SD 120西側張り出し」として遺物を取り上げており、土質としてはSD 170上層とSD 120・2層がほぼ同質で区別できなかった。しかし、掘削をすすめると、「SD 120西側張り出し」の下層がオリーブ灰色の粘質砂となり、SD 120に対して北東方向へ入り込む平面形であることが判明したため、これをSD 170(下層)と変更した。SD 120と170は別々の溝であり、SD 120・2層形成時にも本来的には別の溝であったと考えられる。よって、SD 120・2層として取り上げた遺物に



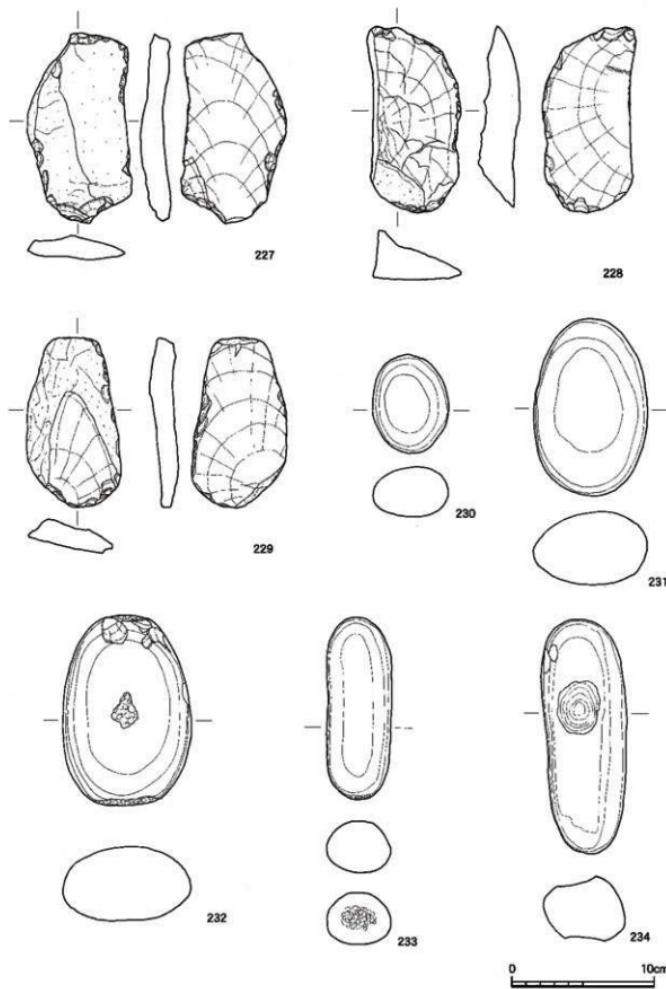
第35図 SD 120・1・2層出土石器実測図(206～213は1/2、他は1/3)



第36図 S D 120・2層出土石器実測図①(1/3)



第37図 SD 120・2層出土石器実測図②(220~224は1/3、他は1/4)



第38図 SD 120・2層出土石器実測図③(1/3)

は、SD170上層出土のものが含まれる場合がある。例えば、SD120・2層出土として報告している前述の第32図188、第37図225、第42図265は、平面的な位置からはSD170上層出土の可能性もある。堆積は、下層が砂質土・粗砂で流水が主要な堆積環境にあったのに対し、上層は暗色粘質土となり、SD120と同様に滯水環境への変化が認められる。

SD170出土遺物(第39・41・42図) 下層から、甕(235)、蓋(236)、器台(237)、上層から、甕(240)、壺(238・239)、脚付甕(241)、円盤形土製品(263)が出土した。239は口唇部にハケメ工具端による網目文が施される。下層出土土器が弥生時代後期前半・高麗瀬式土器の前半代、上層出土土器が弥生時代後期後業・下大限式の新しい段階と考えられる。石器は、投弾(248)、石錐(249)、礫石錐(250)、玄武岩製大型刃器(251)、磨石(253)が出土した。249は中心で破断し、磨滅しているため、穿孔部より上方への溝の有無が不明である。溝を成形する前に破断しているかもしれない。250は細い溝が形成され砥石としての使用もみられるが、石材や形態から礫石錐の可能性が考えられる。251は後方に素材面を残した横長剥片の末端を両面加工して刃部としている。鉄器は、鍛造鉄斧(266)が出土した。刃部が幅広く偏刃をなす大型斧である。前述のように、SD120・2層出土とした鍛造鉄斧(第42図265)も、同じSD170出土の可能性がある。

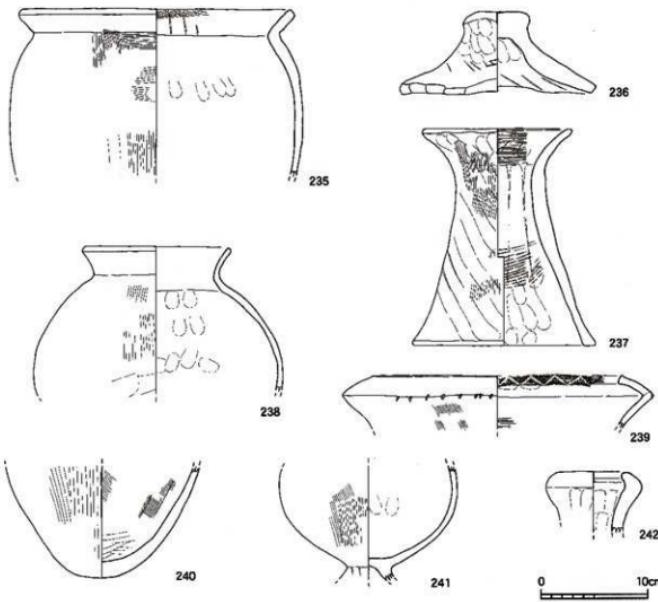
SD130(第20図) SD120西側に厚さ10~15cmほどで堆積した黄灰色~暗灰黄色粘土層である。SD120と平面的に分離するが、堆積としてはSD120・2層と同質のものである。残りが悪く詳細は不明であるが、SD120・2層の掘り直し時に生じた排出土の可能性もある。

出土遺物(第40・41図) 甕(243)、鉢(244)、小型鉢(245)、底部穿孔土器(246)、高环(247)、石錐未成品(252・256)、石製投弾(254・255)が出土した。244は、口唇部が肥厚平坦に成形され、外面にタタキ痕を残す。246は、底部中央に焼成前の円形孔が穿たれる。247は裾部に焼成前穿孔が3ヶ所認められる。256は上方へ向かう削り痕が残り、孔・溝を設ける部分に敲打痕が残る。遺物から遭構の時期は、古墳時代初頭であり、SD120・2層と同時期と考えられる。

SD090(第20図) SD120上に堆積した流路状堆積で、人頭大花崗岩礫とともに遺物を散漫に含む。本層の珪藻化石群集の傾向はSD120・2層と同様であり、様々な環境に生育する珪藻化石が混在する混合群集で、滞水期を挟みながら、周囲の表層土壤が雨水等によって流れ込む堆積環境であったと推定される(本書第V章第3節)。上層のSX002が平面的に広がっているのに対し、SD090は下層のSD120上の平面範囲にほぼ収まっていることから、SD120の蓄澆機能が失われた後、そこが冲積作用によって埋没する過程でSD090が形成されていると考えられる。

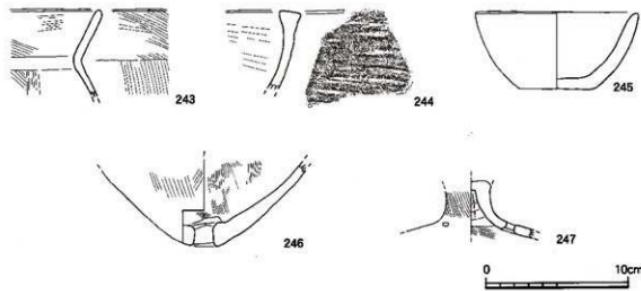
出土遺物(第42~45図) 甕(267)、鉢(269)、各種壺(268・270~274・278)、高环(275~277)、器台(279)、支脚(280)、筒状土製品(264)、埴輪(282)、須器甕(283)、龍泉窯系青磁碗(281)が出土した。270は古墳時代前期の長頸壺である。271は口縁部に竹管刺突粘土小円盤を2個貼り付ける。274は口縁内面から外面に丹を残す。277は裾部に2段小円穿孔が3ヶ所施される。279は方形透かしが設けられ、外面調整はヨコ・タテハケメで文様効果をもたらせている。280は、側面をつまみ上げて突起を作っている。264は高环脚部の下方破断部を水平に再加工し、筒状の形状をなしたもので、用途不明である。282は円筒埴輪下端部で、胎土は砂粒が少なく、焼成良好、にぶい黄橙色を呈す。SX002出土円筒埴輪189と類似し、同一個体の可能性もある。281は、龍泉窯系青磁碗II類(E期、13世紀前後~前半)で、オリーブ灰色釉が全体に厚くかかり、大きめの貫入がみられる。上層からの混入と考える。

石器は、石錐(284)、玄武岩製大型刃器(285・286)が出土した。285・286は横長剥片の縁辺に片面・両面加工を施した搔器・削器である。285は前面中央には敲き痕跡も認められる。

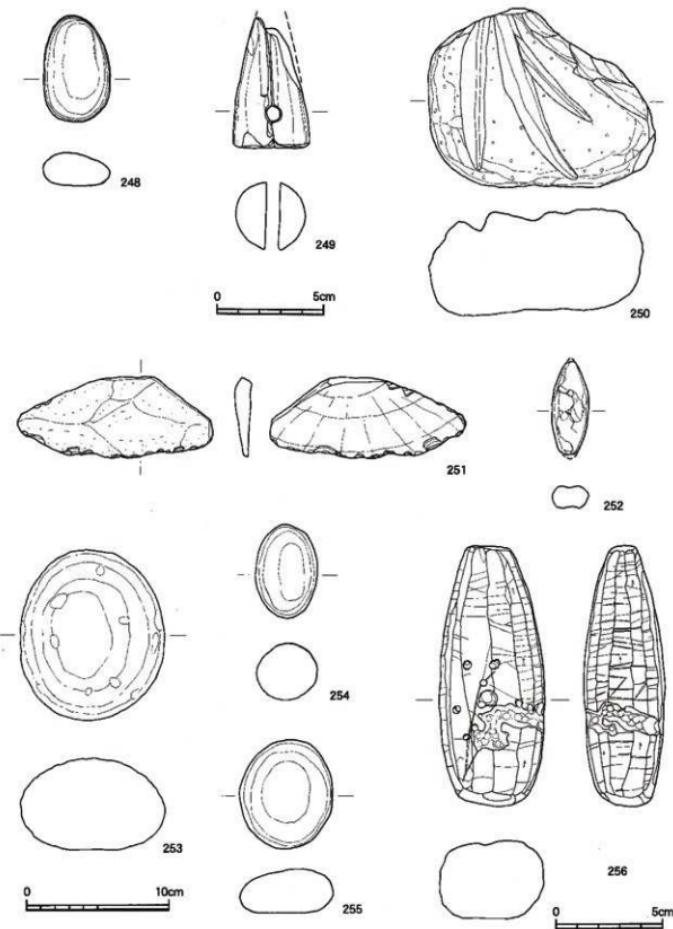


235~237 下層 238~242 上層

第39図 SD 170出土土器実測図(1/4)

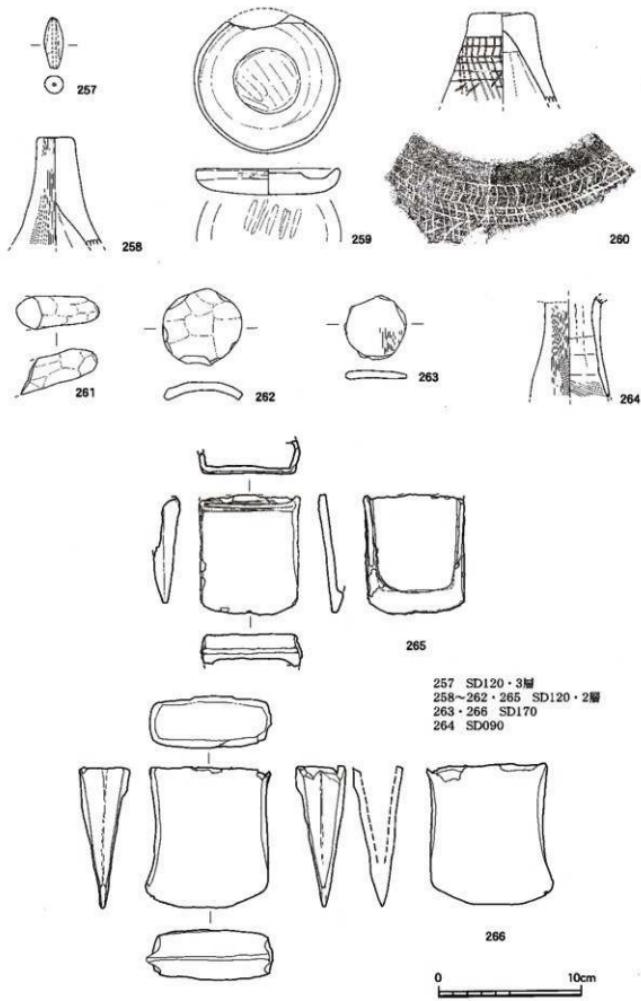


第40図 SD 130出土土器実測図(1/3)

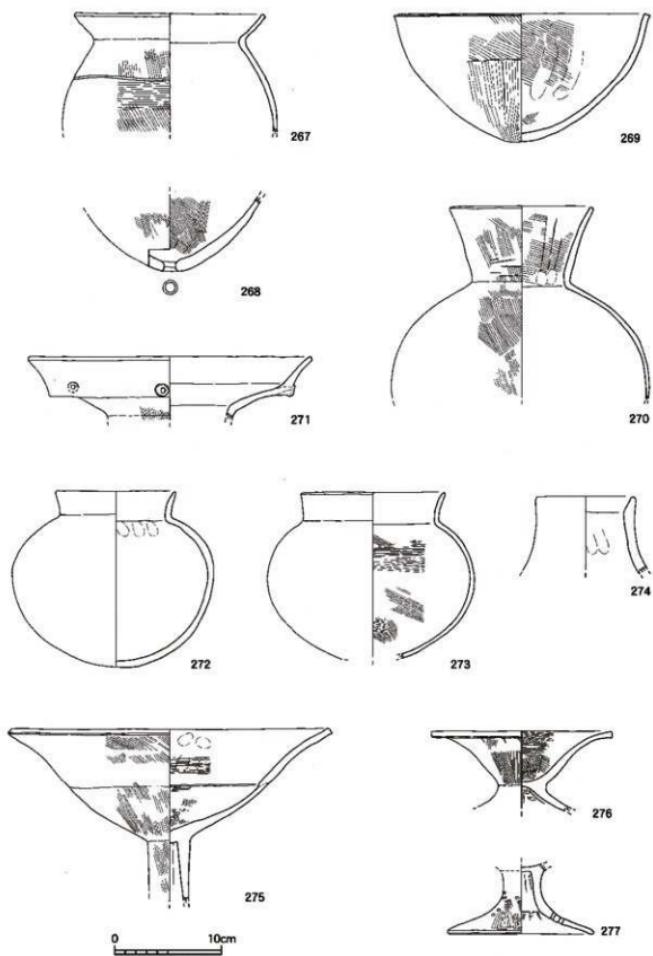


248~251・253 SD170 252・254~256 SD130

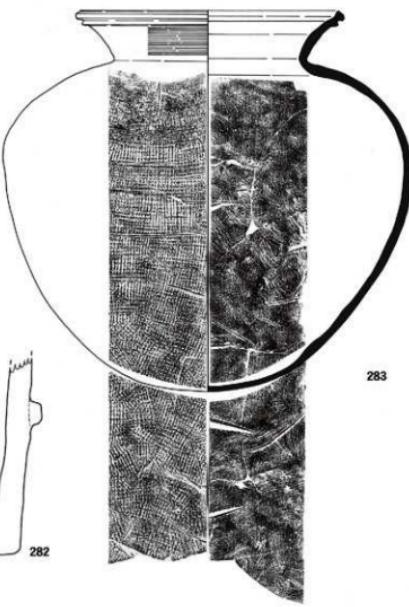
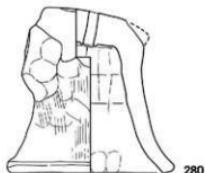
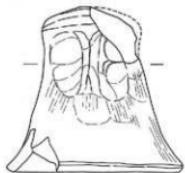
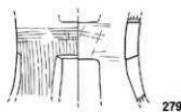
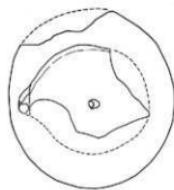
第41図 SD170・130出土石器実測図(248・249・252・256は1/2、他は1/3)



第42図 S D 120・170・090出土土製品・鉄器実測図(1/3)



第43図 SD090出土土器実測図(1/4)

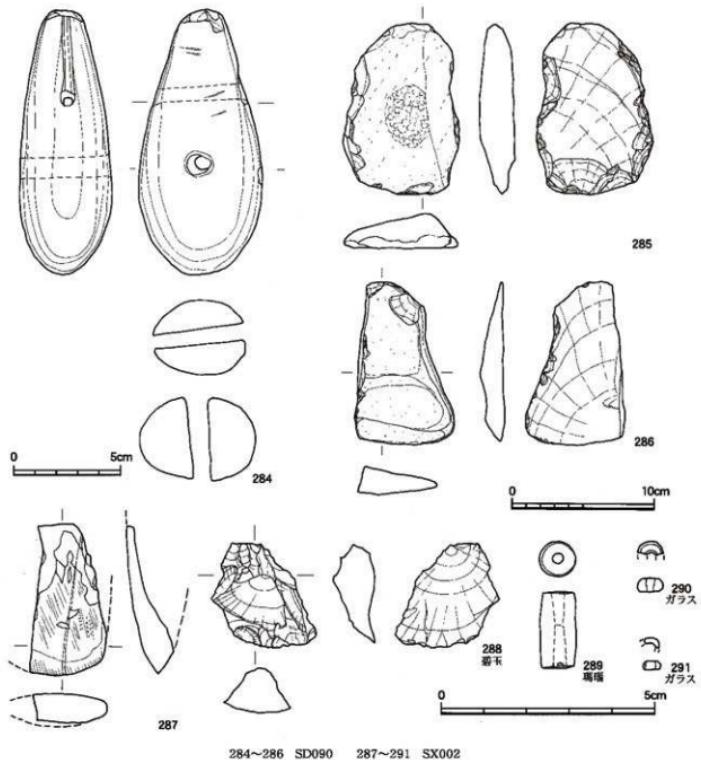


第44図 S D090出土遺物実測図(278～280は1/3、他は1/4)

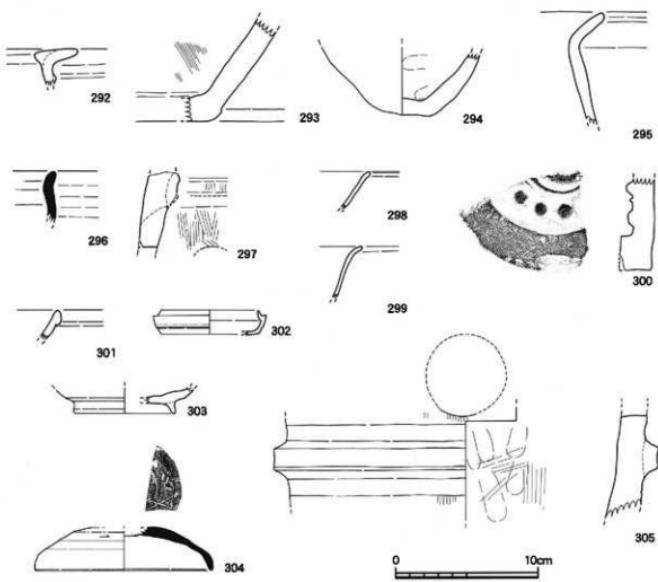
6. 包含層 SX

調査区中央と東区を中心に、遺物包含層が遺構面上に広く堆積していた。比較的均質な粘質土で、遺物を散漫に含みながら、水平に堆積している。このような堆積は洪水などによる急激なシルト・砂の堆積というよりは、下層のSD090と同様に長期間の安定した沖積作用による堆積と考えられる(本書第V章第3節)。包含層下の遺構の残りは良好とは言えず、遺構面は包含層の形成とともに水平に削られている。包含層中に含まれる弥生時代中期～中世にいたる遺物は、本来何らかの遺構埋土に含まれていた遺物が、沖積作用による遺構の破壊に伴って包含層中に混在したものと考えられる。

S X002(第20図) SD090上に堆積した厚さ60～80cmの褐色シルト質粘土層で、遺物が散漫に含



第45図 SD090・SX002出土遺物実測図(284は1/2、285～287は1/3、他は1/1)



292~294 SX003 295 SX164 296~297 SX165 298 西区検出面
299~300 SX108 301~305 SX002

第46図 S X出土遺物実測図(1/3)

まれる。SD090の範囲より東西に広く堆積している。場所によって土質はわずかに異なるが、漸移的なものであります層は行えなかった。SD001に西端を切られるが、その先是一体的になっており、ほぼ同時期に存在していたと考えられる。上面においてはSD001以外には遺構を検出していない。出土遺物(第45・46図) 白磁の碗(301)・合子身(302)、土器器碗(303)、須恵器坏蓋(304)、埴輪(305)、磨製石斧(287)、緑色碧玉の剥片(288)、瑪瑙製管玉(289)、ガラス製小玉(290・291)が出土した。301は、白磁碗IV類(C期)で、ややオリーブ色がかった灰白釉が薄く均一にかかり、貫入はみられない。302は、受け部・胴部下半外面が露胎で、オリーブ色がかった透明釉が薄くかけられ、細かい貫入がみられる。304は蓋の裾部が外傾し、浅く、7世紀初頭に位置づけられる。天井部にヘラ記号が残る。305は円形透かし孔をもった円筒埴輪で、胎土は砂粒を少なく含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄褐色を呈す。287は定角式の大型斧で、両刃面に平行する斜位の縁状痕が認められる。289は、乳白色～濃茶色を呈す石材で、理化学分析では瑪瑙という結果が得られている(本書第V章第1節)。包含層の形成時期の下限は、白磁碗の時期から11世紀後半～12世紀前半と考えるが、下層のSD090に龍泉窯系青磁碗II類(E期)の281が混入していることから、13世紀前半まで下る可能性



1. 中砂。鉄分沈着 2. 灰白色中砂
3. 灰白色細砂。中・粗砂混 4. 黑灰色中砂。粗砂混
5. 白灰色細砂 6. 黑灰色中砂、オリーブ灰色粘土混土

306

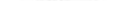


307

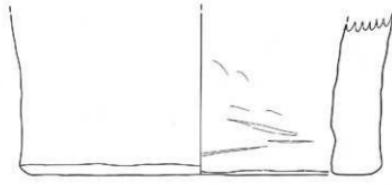
308



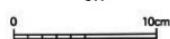
310



309



311



第47図 S D 001土層(1/50)および出土遺物実測図(1/3)

もある。

S X003 東区東側に厚さ3~5cmと薄く残存した暗褐色シルト質粘土層で、摩滅した弥生土器小片を含む。遺物は平面で8区に分け、東側をS X003、西側をS X005として取り上げたが、内容に差がないため、S X003に一括して報告する。底面は凹凸をなし、生痕を残す。

出土遺物(第46図) 弥生時代中期後半の甕(292・293)、古墳時代初頭の甕(294)が出土した。この他、弥生時代中期後半~後期の丹塗土器、甕・壺・高坏等の土器小片がコンテナケース2箱分出土した。弥生時代~古墳時代初頭遺物のみを含む点で、後述の西区包含層S X164・165よりも古い様相を示す包含層であり、環濠集落が放棄された直後に堆積した可能性が高い。

S X164・165 西区西側に堆積した暗褐色シルト質粘土層で、摩滅した弥生土器小片を含む包含層である。土器が比較的集中する落ち込み部分の遺物をS X164、その他をS X165および西区検出面として取り上げた。前述の東区包含層S X003と類似するが、含まれる遺物の時期がより新しい。

出土遺物(第46図) S X164からは弥生時代後期前半・高三諸式土器の甕(295)が出土した。S X165からは須恵質の甕(296)、円筒埴輪片(297)、西区検出面からは、綠釉陶器の楕(298)が出土した。296は内外面に強い横方向の調整がみられる。297は幅広で低い突帯が貼り付けられ、透かしが付けられる。

S X 108および出土遺物(第4・46図) 西区中央北側で検出した段落ち状の遺構である。検出できたのが部分的であり、遺構の性格は不明である。中世後半の白磁碗(299)、軒丸瓦(300)が出土した。

7. 溝 S D

S D001(第4・47図) 西区・1面(S X002上)で検出した溝で、S X002に合流する形で東方向へ直線的に走る。幅2m、深さ30~40cmを測り、断面形は緩やかなU字形を呈す。埋土は下層が黒灰色粘砂土、上層が細・中砂の互層で、溝最下面に接する地山がグリアイ化する。溝が枝分かれしたり、小型の溝が並走した痕跡が認められ、水路としての機能が推定される。南側に、1mピッチで木杭を打った近現代水路が重複・並走している。

出土遺物(第47図) 弥生時代中期後半の大型壺(311)、円筒埴輪(310)、白磁の皿(306・307)、黒色土器B類碗(308)、平瓦片(309)が出土した。311は土器棺用の大型壺口縁部片で、弥生時代中期後半・須玖II式土器である。310は胎土緻密、焼成良好な円筒埴輪底部片で、復元底径23.2cmを測る。306と307は白磁皿X1類(B期)で、細かい買入が認められ、同一個体の可能性がある。遺物の下限の時期は、白磁皿の時期から10世紀後半~11世紀中頃であるが、遺構の下限時期はS X002と同時期の12世紀前半もしくは13世紀前半まで下る可能性もある。この他、弥生土器、須恵器、陶磁器小片、鉄滓、輝緑凝灰岩製石庵丁片、玄武岩片がコンテナケース2箱分出土した。

第1表 出土土器・土製品観察表(1)

番号	番号	形態	種類	断面	位置(cm)	地土	地城	色調
S 1	SP007	弥生土器	壺	1/8	復元口径10	径35mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 2	SP008	弥生土器	壺	1/8	復元口径14	径40mm以下の粗、無砂粒を多く含む。赤色粒を含む	良好	明赤褐色
S 3	SP102	弥生土器	壺	1/4	復元口径31.底径4.8	径35mm以下の粗、細砂粒を多く含む	良好	上：赤色、中：暗赤褐色 底：白色、内：暗褐色
S 4	SP102	弥生土器	壺	底底	底径4.8	粗、無砂粒の下の粗、細砂粒を多く含む 赤色粒を含む	不良	褐色
S 5	SP002	弥生土器	壺	小片		径35mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	にほい黄褐色
S 6	SP050	弥生土器	壺	小片		径35mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 7	SP009	弥生土器	壺	小片		径35mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	にほい黄褐色
S 9	SP001	弥生土器	壺	小片	復元口径26.4	径35mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 8	SP041	弥生土器	壺	小片	復元口径26.4	径35mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	にほい黄褐色
S 10	SP155	弥生土器	壺	小片	復元口径13	無、無砂粒、赤色粒を少し含む	良好	褐色
S 11	SP143	弥生土器	壺	小片	復元口径13	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 12	SP068	弥生土器	壺	小片	復元口径13	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 13	SP151	弥生土器	高杯	小片	復元口径13	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 14	SP048	弥生土器	高杯	小片	復元口径13	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 15	SP172	土器	小瓶	1/4	復元口径1.9	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 16	SP125	土器	小瓶	1/4	復元口径1.9	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	外：無、内：褐色
S 17	SP127	土器	小瓶	1/8欠刻	復元口径1.9	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	にほい褐色
S 18	SK043	弥生土器	壺	小片	復元口径1.9	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 19	SK004 之北	弥生土器	壺	小片	復元口径1.9	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 20	SK004 南側	弥生土器	高杯	1/8	復元口径19.2	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 21	SK004 R4	弥生土器	壺	1/8	復元口径15.7	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	灰白色
S 22	SK004 R3	弥生土器	壺	1/4	復元口径15.7	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 23	SD010 R3	弥生土器	壺	底底		無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 24	SD010 R4	弥生土器	壺	底底		無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 25	SD010 R5	弥生土器	壺	底底		無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 26	SD010 R6	弥生土器	壺	底底		無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 27	SD010 R7	弥生土器	高杯	1/8欠刻	復元口径1.9、底高1.5、脚高1.5	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 28	SD010 R1	弥生土器	高杯	2/3欠刻	復元口径1.9、底高1.5、脚高1.5	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 29	SD008	弥生土器	壺	小片		無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	外：にほい黄褐色、内：西褐色
S 30	SD008 R2, 4	弥生土器	壺	1/8	復元口径20.2	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 31	SD006 R1	弥生土器	壺	1/8	復元口径19.7	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 32	SD006 R2	弥生土器	壺	1/8	復元口径19.7	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 33	SD006 R3	弥生土器	壺	1/8	復元口径19.7	無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 34	SD013 R3	弥生土器	壺	小片		無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 35	SD013 R1	弥生土器	壺	底底		無、無砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
S 36	SD009	弥生土器	壺	1/10	復元口径25.9	無、無砂粒、赤色粒を多く含む。金属性	良好	褐色
S 37	SD009 R1	弥生土器	壺	1/9	復元口径24.6	無、無砂粒、赤色粒を含む。金属性	良好	外：浅黃褐色、内：明褐灰色
S 38	SD009 R1	弥生土器	壺	1/4	復元口径18.4	無、無砂粒、赤色粒を多く含む。金属性	良好	褐色
S 39	SD009 R2	弥生土器	高杯	1/2欠刻		無、無砂粒、赤色粒を多く含む。金属性	良好	褐色

第1表 出土土器・土製品観察表(2)

番号	形名	縦幅	横幅	厚さ	直径(cm)	土器	焼成	色調	
14 42	SB029 K1	牛牛土器	人型裏	小片		5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色	
14 43	SB029	牛牛土器	高坪	片割		5cm以下の砂粒を多く含む 赤色粒も含む	良好	淡黄褐色	
14 44	SB016 K1	牛牛土器	實	2/3	底元口径21.5 底深さ23.5	5cm以下の砂粒、細砂粒を多く含む 赤色粒も含む	今や 外: 淡黄褐色。内: 褐色		
14 45	T	SB016 K2	牛牛土器	實	口徑14.6	5cm以下の砂粒を含む	良好	褐色	
14 46	SB016	牛牛	牛牛土器	高坪	小片	5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色	
14 47	SB016 K1	牛牛土器	薄合	1/2	底元口径11.6	5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色	
16 48	SK114 NE1	牛牛土器	實	小片		5cm以下の白色砂粒を含む、金属片多い	良好	褐色	
16 49	SK114 NW1	牛牛土器	實	1/4	底元口径7.0	5cm以下の白色砂粒多い、金属片多い	良好	褐色	
16 50	SK114 NSK1	牛牛土器	高坪	1/3		5cm以下の白色砂粒	良好	褐色	
16 51	SK114 NW1	牛牛土器	高坪	小片		5cm以下の白色砂粒多い、金属片含む	良好	褐色	
16 52	SB113	椭圆坛	牛牛土器	高坪	底元口徑19	5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色	
16 53	SD113	牛牛土器	高坪	小片		5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色	
16 54	SD113	牛牛土器	文化	1/4	底元口徑11.6	5cm以下の砂粒、細砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
16 55	SD128	牛牛土器	器台	1/6	底元口徑12	5cm以下の砂粒、細砂粒を多く含む 赤色粒を含む	良好	褐色	
16 56	SD107 K1	牛牛土器	高坪	實		5cm以下の白色砂粒を含む	良好	褐色	
17 57	SD106 K14	牛牛土器	實	1/2	底元口徑22.4、底 深さ17.7	5cm以下の砂粒、細砂粒を多く含む	良好	にぶい黃褐色	
17 58	SD106 K15	牛牛土器	實	1/6	底元口徑22	5cm以下の砂粒を多く含む 赤色粒を含む	今や 不良	明赤褐色	
17 59	SD106 K15	牛牛土器	實	1/6	底元口徑20.8	5cm以下の砂粒、細砂粒を多く含む 赤色粒を含む	今や 外: 棕褐色。内: にぶい黃褐色		
17 60	SD106 K16	牛牛土器	脚付甕	脚付甕	口徑15.6	5cm以下の砂粒、細砂粒を多く含む 赤色粒を含む	今や 不良	褐色	
17 61	SD106 南ICU1	牛牛土器	脚付甕	1/2		5cm以下の砂粒、細砂粒を多く含む 赤色粒を含む	良好	褐色	
17 62	T	SD106	牛牛土器	脚口瓶	1/2	底元口徑10	5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色
17 63	SD106 K2.4	牛牛土器	實	1/6		5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	今や 外: 棕褐色		
17 64	SD106 K3	牛牛土器	實	1/6	底元口徑6	5cm以下の砂粒、細砂粒多く含む 赤色粒を含む	今や 外: 棕褐色		
17 65	SD106 K7	牛牛土器	高坪	底元口徑8		5cm以下の砂粒、細砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
17 66	SD106 K8	牛牛土器	高坪	1/6	底元口徑7	5cm以下の砂粒、細砂粒多く含む 赤色粒を含む	今や 外: 棕褐色		
17 67	SD106 K7	牛牛土器	高坪	1/6	底元口徑9	5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	淡黄褐色	
17 68	SD106 K8	牛牛土器	高坪	1/6	底元口徑8	5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	淡黄褐色	
17 69	T	SD106 K11	牛牛土器	脚付甕	1/3	底元口徑11.4、底 深さ13.7、底周長4	5cm以下の砂粒を多く含む 赤色粒を含む	良好	褐色
18 70	SK007 K1	牛牛土器	實	小片		5cm以下の白色砂粒を非常に多く含む 金屬片を含む	良好	外: 棕褐色。内: 始状黄色	
19 71	SK004 ベルト	牛牛土器	實	1/6	底元口徑19.2	5cm以下の白色砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色	
19 72	SK004 074	牛牛土器	實	小片		5cm以下の砂粒、赤色粒を多く含む 金屬片、赤色粒、金属片を含む	良好	外褐。内: 黑色。内面: にぶい黃褐色	
19 73	SK024 K1	牛牛土器	高坪	1/4	底元口徑32.0	5cm以下の白色砂粒、小石粒、金屬片 を含む	良好	淡黄褐色	
21 77	SD120	直筒圓	牛牛土器	實	1/6	底元口徑27.8	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色
21 78	T	SD120 4腹	牛牛土器	實	3/4	口徑9.4	5cm以下の砂粒、赤色粒を多く含む	良好	外: にぶい黃褐色。内: にぶい黃褐色
21 79	T	SD120 4腹 T2	牛牛土器	實	3/4	口徑9.4	5cm以下の砂粒、赤色粒を多く含む	良好	外: にぶい黃褐色。内: にぶい黃褐色
21 80	SD120 4腹+2耳	牛牛土器	實	1/4	底元口徑25.6	5cm以下の砂粒、赤色粒を多く含む	良好	にぶい黃褐色。内: にぶい黃褐色	
21 81	SD120	直筒圓	牛牛土器	實	底元口徑	5cm以下の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
21 82	T	SD120 4腹 R1	牛牛土器	實	4/6	底元口徑13.7、底 深さ12.1	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色
21 83	T	SD120 4腹	牛牛土器	實	2/3	底元口徑13.8、底 深さ12.2	5cm以下の砂粒を含む	良好	外: 淡黄褐色~白褐色。内: 黄褐色 外側: 淡黄褐色下部: 黄褐色
21 84	SD120 4腹	牛牛土器	鉢	2/3	底元口徑13.8、底 深さ12.2	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色	
21 85	SD120 4腹 R2	牛牛土器	鉢	1/4	底元口徑18.8、底 深さ11.8	5cm以下の砂粒を含む	良好	外: 淡黄褐色。内: 淡黄褐色	
21 86	SD120 4腹	牛牛土器	鉢	1/4	底元口徑18.8、底 深さ11.8	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色	
21 87	SD120 4腹	牛牛土器	上部	つまみ紐5.6	5cm以下の砂粒を含む	良好	外: にぶい褐色。内: 淡黄褐色		
22 87	T	SD120 4腹 T2	牛牛土器	上部	1/6	口徑22	5cm以下の砂粒を含む	良好	外: にぶい褐色。内: 淡黄褐色
22 88	SD120 4腹 外付耳	牛牛土器	上部	小片		5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色	
22 89	SD120 4腹 T2	牛牛土器	上部	小片		5cm以下の砂粒を含む、金葉片付立つ	良好	にぶい黃褐色	
22 90	SD120 4腹	牛牛土器	實	2/3	口徑21.4	5cm以下の砂粒を含む 5cm以下の中の砂粒を含む 5cm以下の砂粒が混入	良好	外: にぶい褐色。内: 口付一帯 外: にぶい褐色。内: にぶい褐色。頭部: にぶい 褐色。外: にぶい褐色	
22 91	T	SD120 4腹	牛牛土器	實	1/2	口徑8.4	5cm以下の砂粒を多く含む	良好	にぶい褐色
22 92	T	SD120 4腹	牛牛土器	實	1/2	口徑12.5	5cm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	にぶい褐色
22 93	SD120 4腹+2耳	牛牛土器	實	1/4	底元口徑18.5	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色。内: にぶい黃褐色	
22 94	SD120 4腹	牛牛土器	實	2/3	底元口徑7.4	5cm以下の砂粒を含む	良好	外: にぶい褐色。内: 口付一帯 外: にぶい褐色。内: にぶい褐色。頭部: にぶい 褐色。外: にぶい褐色	
22 95	SD120 4腹上部	牛牛土器	實	1/4	底元口徑10.4	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい褐色	
22 96	SD120 4腹上部	牛牛土器	實	1/4	底元口徑10.4、底 深さ10.8	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい褐色~淡黄褐色	
22 97	SD120 4腹	牛牛土器	薄合	1/4	底元口徑10.4、底 深さ10.8	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色。内: 丹の痕跡あり	
22 98	SD120 4腹+2耳	牛牛土器	薄合	小片		5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい褐色	
22 99	SD120 4腹	牛牛土器	薄合	小片		5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい褐色	
23 100	SD120 4腹	牛牛土器	薄合	1/6	上部底9.9、下部 底11.0、底高10.8	5cm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黃褐色	

第1表 出土土器・土製品觀察表（3）

第1表 出土土器・土製品観察表(4)

件号	番号	出土地	種類	形態	寸法(cm)	地質	焼成	色調	
33 194	SD120 2層	共生土層	器物	L/2 直径12.5、高さ21.0	復元口徑16.6、復元 高さ18.5、底面輪郭 直徑12.5、高さ21.0	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色	
33 195	SD120 2層	共生土層	器物	L/2 直径12.5、高さ21.0	復元口徑16.6、復元 高さ18.5、底面輪郭 直徑12.5、高さ21.0	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色	
33 196	8	SD120 2層	共生土層	青磁文部 火照	復元口徑7.5、高さ 15.3	底3mm以下の砂粒を含む	良好	男:にぶい黄褐色。内:褐褐色	
33 197	8	SD120 2層	共生土層	器物	直径19	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色	
33 198	SD120 2層	共生土層	帝形文部 火照	L/2 復元口徑21.0	復元口徑21.0、底 直徑21.6	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	外:褐色。内:にぶい黄褐色	
33 199	SD120 2層	共生土層	器物	上半部	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色		
34 200	SD120 1層	共生土層	器物	L/2 復元口徑16.5、底面 直徑16.5	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色		
34 201	8	SD120 1層	共生土層	器物	直徑18.4、底 直徑21.6	底4~5mmの大粒・細砂粒少々と底3mm 下の砂粒を含む	良好	外:褐色。内:明赤褐色	
34 202	SD120 1層	共生土層	器物	上半部	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色		
34 203	SD120 1層	共生土層	器物	L/4 復元口徑25.6	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	にぶい黄褐色		
34 204	SD120 1層(火照)	共生土層	高岸	器物	直徑18.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい褐色。丹の痕跡あり	
34 205	SD120 1層	共生土層	器物	直徑18.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	褐色		
35 235	SD170 青灰砂 下層	共生土層	器物	L/4 復元口徑35.8	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	外:にぶい黄褐色。内:にぶい黄褐色		
39 234	SD170 青灰砂 下層	共生土層	器物	直徑30.7 つまみ目8.2、厚さ 2.5	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:にぶい黄褐色。内:にぶい黄褐色		
39 237	SD170 青灰砂 下層	共生土層	器物	L/2 直徑14、底面 直徑20.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	褐色ににぶい黄褐色		
39 238	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑14.4、底面 直徑21.3	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:褐色～暗褐色。内:浅赤褐色		
39 239	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑13.4	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	浅赤褐色		
39 240	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑13.4	底3mm以下の砂粒を少し含む	良好	外:浅赤褐色～にぶい黄褐色。内:浅赤褐色		
39 241	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑13.4	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	褐色		
39 242	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑13.4	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	褐色		
39 243	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑13.4	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:褐色～暗褐色。内:浅赤褐色		
39 244	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑13.4	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:にぶい黄褐色		
39 245	SD170 上層砂土	共生土層	器物	直徑13.4	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:浅赤褐色～にぶい黄褐色。内:浅赤褐色		
40 246	8	SD130	共生土層	直弧孔 器物	直徑5.5	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	にぶい黄褐色	
40 247	SD130	共生土層	高岸	器物	直徑5.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色	
42 251	SD120 3層 TD	上層土	土器	直徑8.5、厚さ 0.3、重さ8.3g	砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
42 252	8	SD120 2層	土器	不明	砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
42 253	8	SD120 2層 RS	土器	直徑10.1、中腹環 直徑8.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
42 260	SD120 2層 天然	土器	有文	直徑11.4、高さ 3.4	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外:にぶい黄褐色。内:浅赤褐色		
42 261	SD120 2層	土器	無文	直徑11.8、底大径 2.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
42 262	SD120 2層	土器	無文	直徑12.2~9.3、厚0.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
42 263	SD170 青灰砂 上層	土器	無文	直徑3~5.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
42 264	SD170 TD 上層	土器	無文	直徑4.5、厚0.3~0.5	砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
43 267	SD170 TD 上位	共生土層	器物	直徑15.1	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
43 268	SD170 東北	共生土層	直弧孔 器物	直徑15.8	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
43 269	SD170 TD 上位	共生土層	器物	直徑15.8	底3mm以下の砂粒を含む	良好	外:にぶい黄褐色。内:浅赤褐色		
43 270	SD170 西北	共生土層	器物	直徑15.8	底3mm以下の砂粒を含む	良好	外:にぶい黄褐色～褐色。内:黑色		
43 271	SD170 TD 上位	共生土層	器物	直徑15.8	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	にぶい黄褐色		
43 272	SD170 西北	共生土層	器物	直徑15.8	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	にぶい黄褐色		
43 273	8	SD170 西北	共生土層	直口	直徑13.5	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	外:浅赤褐色。内:浅赤褐色	
43 274	SD170 TD 上位	共生土層	器物	直口	直徑13.5	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	にぶい黄褐色。丹の痕跡あり	
43 275	SD170 西北(火照)	共生土層	器物	直口	直徑13.5	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	外:褐色。内:にぶい黄褐色	
43 276	SD170 西北	共生土層	器物	直口	直徑13.5	底3mm以下の砂粒を多く含む	良好	褐色	
43 277	SD170 北からト	共生土層	器物	直口	直徑13.8	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色。丹の痕跡あり	
43 278	SD170 TD 上位	共生土層	器物	直口	直徑13.8	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色	
44 279	8	SD170 東北	共生土層	器物	直口	直徑11.4~12.4、高 さ11.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色
44 280	8	SD170 西北	共生土層	器物	直口	直徑11.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	褐色～にぶい黄褐色
44 281	SD170 東北	(青磁文部)	器物	直口	直徑11.5	底3mm以下の砂粒を含む	良好	難:オーピー底。胎土:褐色	
44 282	8	SD170	基盤	円筒	直徑16	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色	
44 283	8	SD170	基盤	円筒	直徑16	底3mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐色	
44 284	SD170 西北(火照)	粗面胎	器物	直口	直徑16.4	底3mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良好	褐色～暗褐色	
46 292	SD165 2層	共生土層	器物	小片	直徑13.5	底3mm以下の白色砂粒、含み土を含む	良好	浅褐色	

第1表 出土土器・土製品観察表(5)

埋回(番号)	埋物	種類	形態	残存	距離(cm)	地土	構成	色調
46 293	SX003 3K	秀生土器	甕	小片	4cm以下	白色砂粒を多く含む 金属性を含む	良好	褐色
46 294	SX003 (SK225)E1	秀生土器	甕	底部	5cm以下	白色砂粒を含む	良好	外: にぶい褐色、内: 明灰色
46 295	SX161	秀生土器	甕	小片	5cm以下	白色砂粒、径5mm以下の砂粒、細砂粒を多く含む	良好	明赤褐色
46 296	SX165	底面部	甕	小片	5cm以下	白色砂粒、黑色砂粒を含む	良好	暗赤色
46 297 8	SX165	底面部	甕	小片	5cm以下	白色砂粒、黑色砂粒を含む	良好	浅青褐色
46 298	西区地出面	陶器	甕	小片	5cm以下	土質質、細砂粒、黑色砂粒を少し含む	良好	褐色を透かす透明白
46 299	SX168	白磁	甕	小片	5cm以下	純白	良好	薄: やや青味を帯びた透明 底: 灰白色
46 300	SX168	灰	軒丸	1/8	板状(約1.8cm)	板状(約1.8cm) 径1mm以下の砂粒、黑色砂粒、赤色母を含む	良好	褐色 底: 灰白色
46 301	SX002 西群北	白磁	甕	小片	5cm以下	小孔が多いや多い。細砂粒を含む	良好	褐色 底: ややオーリー色がかった白色
46 302	SX002 北区	白磁	合子身	1/6	陶元口径4.5、厚さ2mm	陶沙粒をわずかに含む	良好	褐色 底: ややオーリー色がかった白色
46 303	SX002 下田地区	土器底	甕	1/4	陶元口径4.5、厚さ1.7	陶沙粒を含む	良好	浅青褐色
46 304	SX002 実生土器	底面部	甕	1/8	陶元口径4.2	白色砂粒を含む	良好	外: にぶい褐色、内: 明灰色
46 305 8	SX002 TUD	底面部	甕	1/8	陶元口径4.2	白色砂粒を含む	良好	褐色を透かす透明白
47 364	SX001 東区下層	白磁	甕	小片	5cm以下	白色砂粒、黑色砂粒を含む	良好	褐色
47 365	SX001 東区下層	白磁	甕	1/9	台高5.5	白色砂粒を含む	良好	褐色 底: 暗赤色、另施釉: 黑白色
47 366	SX001 東区下層	黑色土器	甕	小片	高台高0.6	白色砂粒を含む	良好	深褐色
47 369	SX001 東区下層	灰	平瓦	小片	5cm以下	白色砂粒を含む	良好	灰色
47 370	SX001 地下	陶器	円筒	1/8	板状(23.2cm)	白色砂粒を含む	良好	浅青褐色
47 371	SX001 西区	秀生土器	大腹甕	1/12	5cm以下	白色砂粒、黑色母を含む	良好	にぶい褐色

第2表 出土石器観察表(1)

*石材の「固性」はネジメントによる。長さ・幅・厚さはcm、重量はg

番号	埋回(番号)	埋物	区	部位等	材質	形態	地3	幅	厚さ	重量	備考
1	SX001	東		黑曜石	斜片	1.45	1.0	0.35	0.59		
2	SX001			黑曜石	石片	2.2	1.65	0.35	0.99		
3	SX002	西	此前	黑曜石	斜片	3.2	4.6	1.65	20.04		
4	15 398	SX002	東	底面	黒(緑)色	斜片	2.85	1.85	0.95	4.29	
5	SX003	5		黑曜石	斜片	2.75	1.95	0.6	3.41		
6	SX004	南仙		黑曜石	斜片	1.9	1.65	0.45	1.43		
7	SX005			白	小斜片	1.25	0.9	0.5	0.48		
8	SX009			黑曜石	斜片	1.55	0.9	0.3	0.28		
9	SX010			黑曜石	斜片	1.9	1.4	0.3	0.60		
10	9 18	SX058+SP044	板	黒(緑)色	黒曜石	(1.05)	(1.0)	0.2	(0.22)		
11	SX108	南		黑曜石	小石核	1.25	1.0	0.7	0.67		
12	SX108			黒曜石	斜片	2.3	1.15	0.35	0.70		
13-1	SX109			安山岩	石核	(1.5)	1.4	0.65	(1.26)		
14	SX114	YH		黑曜石	斜片	1.2	0.7	0.35	0.32		
15	35 206	SX130	1層(砂層)	滑石	結晶質	2.1	1.95	0.7	3.91		
16	SX130	2層		新島原産石	石核	3.05	2.15	1.45	12.69		
17	SX130	2層		黒曜石	斜片	3.55	2.35	0.95	5.73		
18	30 160	SX130	2層	白	斜片	2.0	4.95	0.35	5.55		
19	SX145	板	合子身	黑曜石	斜片	2.65	2.3	0.35	3.57		
20	SX145	板	地面上に合子身	黑曜石	斜片	1.35	1.2	0.3	0.45		
20-1	SX145	板	地面上に合子身	黑曜石	斜片	2.35	4.3	1.45	11.67		
21	SX001	ペルト		黒曜石	斜片	(2.05)	3.9	0.6	(7.99)		
22	SX130	2層		石南床	未完成	(3.65)	(4.0)	0.65	(14.91)		
23	SX130	2層		黒曜石	未完成	(6.65)	4.8	0.75	(28.91)		
24	SX130	2層	北ペルト	滑石	未完成	(0.1)	4.0	0.5	(13.60)		
25	30 161	SX130	4層(上層部)	石	未完成	(7.4)	4.4	0.7	(38.67)		
26	SX170			青灰無鉻	黒曜石	(4.9)	(5.1)	0.45	(9.07)		
27	24 197	SX130	4層(上層部)	滑石	結晶質未完成	5.95	5.9	0.8	50.71		
28	24 196	SX130	4層(TD)	滑石	結晶質	4.9	4.6	0.85	28.58		
29	SX002	北		滑石	滑石	7.25	2.3	1.25	53.00	被燃	
30	SX002	北	西群	滑石	滑石	9.25	6.3	2.25	312.25	被燃	
31	33 213	SX120	2層 北ペルト	白色花崗岩	石核及未完成	7.15	4.4	2.8	163.92		
32	35 212	SX120	2層 夏葉	滑石	石核	9.95	4.9	4.45	309.02		
33	30 183	SX120	3層	滑石	石核	7.35	4.7	4.1	199.15		
34	SX120	3層 TD		滑石	未完成	(6.65)	(4.0)	(3.1)	(14.60)		
35	SX120	3層(東側) 夏葉		石核	未完成	12.15	4.0	3.2	190.05		
36	34 198	SX120	1層	火成岩	斜片	8.8	5.95	2.6	169.33		
37	34 199	SX120	1層 夏葉	石核	斜片	6.3	2.2	1.9	28.28		
38	41 210	SX170	青灰無鉻	夏葉	石核	6.1	3.5	3.35	74.34		
39	41 252	SX130	黒色花崗岩	滑石	石核未完成	4.4	1.65	1.1	10.84		
40	41 258	SX130	黒花崗岩	滑石	石核未完成	12.2	4.95	3.7	361.27		

第2表 出土石器観察表(2)

件号	標印	番号	遺物	区	埋位数	材質	形態	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	
41		SK004	両側 鋸石	新子?	新子?	鋸石	平行	3.95	2.85	2.6	17.01	被熱	
42		SK004	下戸田 鋸石	新子?	新子?	鋸石	平行	(2.5)	(2.3)	1.25	(3.07)		
43	18	76	SK054 (SK74)		2層	鋸石	平行	3.5	3.45	3.05	8.68		
44	35	207	SD120		2層	鋸石	平行	3.6	3.4	1.6	2.96		
45	35	210	SD120		2層	TD(黒色土)	鋸石	平行	6.2	4.15	2.3	18.41	
46	35	205	SD120		2層	TD(黒色土)	鋸石	平行	4.9	2.85	2.0	6.43	
47	35	229	SD120		2層	龙へん	鋸石	平行	4.9	4.45	2.6	10.24	
48			下戸田 鋸石	新子?	新子?	鋸石	平行	4.1	3.85	2.2	5.45		
49			TD 下戸 白色泥岩	新子?	新子?	鋸石	平行	6.45	2.85	1.7	19.93		
50			北ベレト 火打石	新子?	新子?	鋸石	平行	4.65	3.35	2.1	5.59		
51	36	211	SD120		1層(少墨)	白色泥岩	鋸石	平行	5.2	4.95	2.05	76.71	
52			SD120		2層	灰岩(偏性中)	鋸石	平行	4.0	2.75	2.6	24.76	
53			SD120		2層	石灰	鋸石	平行	3.85	2.95	2.35	31.07	
54			SD120		2層	白色泥岩	鋸石	平行	4.05	3.55	2.2	41.68	
55			SD120		2層	白色泥岩	鋸石	平行	4.35	2.9	1.5	25.41	
56			SD120		2層	白色泥岩	鋸石	平行	3.55	2.95	1.8	23.71	
57			SD120		2層	片岩	鋸石	平行	4.65	3.55	1.2	31.64	
58			SD120		2層	片岩	鋸石	平行	4.25	3.05	1.25	25.64	
59			SD120		2層	TD(黒色土)	石舟	平行	2.95	1.05	1.05	7.15	
60			SD120		2層	北ベレト 火打石	鋸石	平行	5.5	2.5	1.7	32.64	
61			SD120		2層	火打石	鋸石	平行	2.85	2.0	1.15	9.55	
62	36	142	SD120		3層	TD	白色泥岩	鋸石	2.95	2.95	2.45	27.95	
63			SD120		2層	北ベレト	白色泥岩	鋸石	4.95	3.15	2.8	62.62	
64			SD120		2層	オリーブ(火打石)	白色泥岩	鋸石	4.85	4.55	1.7	57.82	
65	41	253	SD170		オリーブ(火打石)	火打石	鋸石	4.95	3.1	1.6	39.04		
66	41	253	SD170		オリーブ(火打石)	火打石	鋸石	5.1	4.35	2.1	59.51		
67	41	254	SD170		黒色土	白色泥岩	鋸石	4.3	2.9	2.6	44.14		
68	45	257	SD002	南	下戸田	片岩	平行	(10.5)	(5.3)	(2.1)	(118.67)		
69	9	21	SP182		火打石	石舟	平行	(16.45)	7.5	3.65	(696.63)		
70	35	216	SD120		2層	火打石	石舟	(6.9)	5.65	(2.05)	(136.93)		
71			SD007		火打石	石舟	平行	9.4	8.85	5.8	881.84		
72			SD007		火打石	石舟	平行	12.6	8.9	6.65	10.5		
73	13	37	SK008	58	火打石	石舟	平行	7.65	6.95	3.2	273.09		
74	18	71	SK007		火打石	火打石	平行	12.5	6.05	4.05	745.03		
75			SD006		2層	火打石	石舟	15.5	11.8	5.35	1433.94		
76			SD006		北ベレト	白色泥岩	石舟	(12.45)	(6.85)	(4.65)	(433.35)		
77	38	231	SD120		2層	白色泥岩	石舟	12.3	7.9	5.2	744.67		
78	38	233	SD120		2層	白色泥岩	石舟	12.68	4.4	3.65	342.11		
79	38	234	SD120		2層	火打石	石舟	16.35	5.4	4.35	673.89		
80	38	236	SD120		2層	黒色土	石舟	6.75	5.3	3.45	210.54		
81	38	232	SD120		2層	片岩(黒色土)	石舟	18.25	8.95	5.15	1036.63		
82			SD120		2層	白色泥岩	石舟	12.0	8.15	3.45	524.58		
83			SD120		2層	火打石	石舟	11.2	8.7	5.7	844.14		
84	24	116	SD120		2層	SD170合 火打石	白色泥岩(黒色 土)	石舟	10.0	7.0	2.55	298.64	
85	41	253	SD170		青灰砂岩	黒色泥岩	石舟	11.85	19.05	6.25	1152.09		
86	18	72	SK007		火打石	石舟	平行	18.7	17.0	2.6	1100		
87			SD006		北ベレト	灰岩(偏性なし)	石舟	(5.6)	(2.95)	1.7	(41.76)		
88			SD120		2層	白色泥岩	石舟	(14.5)	(8.9)	6.9	(1409.05)		
89	38	217	SD120		2層	(黒色土)	火打石(偏性なし)	石舟	33.0	14.0	5.6	3850	
90	38	218	SD120		2層	R13	火打石(偏性なし)	石舟	29.35	11.05	5.45	3300	
91	38	218	SD120		2層	商路	火打石	31.0	13.45	3.9	2900		
92			SD120		2層(黒色土) TD	火打石	平行	(5.25)	(1.45)	(1.05)	(11.01)	92-93-95-96-1 後一層	
93			SD120		2層(黒色土) TD	火打石	平行	(3.8)	(2.4)	(0.8)	(11.88)		
94			SD120		2層(黒色土) TD	火打石	平行	(7.55)	7.35	0.95	(74.52)	被熱	
95			SD120		2層(黒色土) TD	火打石	平行	(6.65)	(3.75)	(1.3)	(46.98)		
96-1			SD120		2層(黒色土) TD	火打石	平行	(6.4)	(3.4)	(1.3)	(30.34)		
96	24	111	SD120		4層	火打石	火打石	10.5	8.1	4.35	335.50		
97			SD120		2層	安灰	火打石	6.65	3.7	31	56.47		
98			SD120		1層(少墨)	花崗岩	火打石	14.5	18.9	9.3	2600		
99	37	232	SD120		2層	R8	閃长岩	19.7	21.1	9.0	5200		
100			SD120		2層	花崗岩	火打石	13.65	19.7	6.8	2150		
101	41	256	SD170		黑色執土	花崗岩	火打石	12.35	16.3	6.7	1750		
102			SD075		火打石	花崗岩	火打石	8.0	14.4	5.35	872.57		
103			SD120	南	火打石	花崗岩	火打石	6.0	6.4	2.95	125.64		
104	37	234	SD120		2層	花崗岩	火打石	11.35	13.7	5.15	912.98		
105			SD120		2層	花崗岩	火打石	7.7	12.95	5.8	663.98		
106			SD120		2層	花崗岩	火打石	7.15	10.05	4.05	278.32		
107	37	231	SD120		2層	花崗岩	火打石	8.9	9.85	5.05	442.00		
108			SD120		2層	花崗岩	火打石	6.75	9.5	4.5	270.63		
109	37	230	SD120		2層	花崗岩	火打石	4.4	19.45	3.45	566.53		
110			SD120		2層	花崗岩	火打石	10.6	12.2	3.35	905.66		
111	37	222	SD120		2層	花崗岩	火打石	9.85	11.5	5.25	590.25		
112			SD120		2層	花崗岩	火打石	9.4	13.65	7.25	1125.63		

第2表 出土石器観察表(3)

品目	件名	番号	種類	区	施設等	材質	面種	長さ	幅	厚さ	重量	備考
113	SB139	2	2面	花崗岩	微石削Ⅱ	6.1	6.45	2.35	98.43			
114	37 223	SB139	2面	花崗岩	微石削Ⅱ	12.15	17.15	10.6	2406			
115	SB139	3面	花崗岩	微石削Ⅱ	5.85	7.2	4.9	192.39				
116	SB139	3面	花崗岩	微石削Ⅱ	6.5	7.7	5.5	275.49				
117	SB139	3面	花崗岩	微石削Ⅱ	6.5	8.9	3.55	170.38				
118	SB139	3面	花崗岩	微石削Ⅱ	9.0	9.9	4.65	372.91				
119	SB139	3面	花崗岩	微石削Ⅱ	10.25	11.45	7.15	1047.78				
120	SB139	3面	花崗岩	微石削Ⅱ	9.0	11.1	6.45	482.80				
121	SB139	3面	花崗岩	微石削Ⅱ	9.1	10.95	4.65	495.20				
122	SB139	褐色土	花崗岩	微石削Ⅱ	9.0	11.25	6.8	877.14				
123	9 39	SP149	支釘孔	石核		17.0	25.1	6.0	2900			
124	SB179	1面	(微)	玄武岩	石核		1.5	3.75	0.45	1.5		
125	SB139	1面	(微)	玄武岩	母岩	20.9	23.5	12.45	95.56			
126	SB139	2面	玄武岩	母岩	17.15	17.25	4.6	1966				
127	30 166	SB139	2面	玄武岩	母岩	18.6	19.25	6.7	3250			
128	SD601	東	下層	玄武岩	石核	13.4	17.8	6.3	2506			
129	SD601	東	下層	玄武岩	母岩	9.75	14.95	3.35	430.03			
130	SD108	西	玄武岩	石核	13.85	16.2	3.0	945.17				
131	SD130	1面	(微)	玄武岩	石核	8.7	11.25	5.4	491.61			
132	SD130	1面	(微)	玄武岩	母岩	1.5	3.75	0.45	1.5			
133	SD130	1面	(微)	玄武岩	母岩	1.51	1.52	2.85	100.527			
134	SD130	1面	(微)	玄武岩	石核	11.85	15.85	3.05	766.33			
135	SD130	1面	(微)	玄武岩	石核	9.0	19.5	4.25	908.39			
136	SD130	1面	(微)	玄武岩	母岩	10.3	16.25	5.55	1371.57			
137	37 228	SB139	2面	玄武岩	石核	13.4	19.7	4.65	1553.15			
138	SB179	2面	玄武岩	母岩	11.5	14.5	5.65	1363.53				
139	SD601	西	玄武岩	母岩	7.6	4.0	0.85	30.88				
140	SD130	83	玄武岩	刃形		13.25	6.2	1.95	226.93			
141	SD130	玄武岩	横長削片			7.55	10.2	2.15	232.82			
142	SD601	玄武岩	横長削片			5.15	11.35	2.05	129.23			
143	43 285	SD600	東	玄武岩	刃形	11.75	8.1	2.45	318.86			
144	SD600	北ペルト	玄武岩	横長削片		10.2	10.3	2.25	217.21			
145	SD600	北ペルト	玄武岩	横長削片		6.55	11.0	1.5	13.57			
146	SD130	1面	(微)	玄武岩	刃形	10.1	7.25	2.65	243.54			
147	SD130	1面	(微)	玄武岩	剝片	8.3	7.9	1.4	130.16			
148	38 227	SB139	2面	玄武岩	刃形	13.0	7.15	1.7	230.51			
149	SB139	2面	玄武岩	小型削片		3.05	3.85	0.75	9.48			
150	SB139	2面	玄武岩	小型削片		4.35	5.15	1.1	35.25			
151	SD130	2面	玄武岩	刃形		(8.1)	6.4	1.85	(133.49)			
152	SD130	2面	玄武岩	刃形		10.4	7.15	2.55	227.58			
154	SD130	2面	玄武岩	剥離帶		14.1	7.05	2.2	300.92			
155	SD130	2面	北ペルト	玄武岩	小型削片	4.15	5.95	0.7	32.62			
156	SD130	2面	北ペルト	玄武岩	小型削片	4.05	6.35	1.2	31.78			
157	SD130	2面	北ペルト	玄武岩	小型削片	4.3	4.2	1.45	26.56			
158	38 228	SD130	2面	玄武岩	刃形	12.75	6.35	3.35	291.15			
159	SD130	2面	玄武岩	横長削片		9.55	10.5	2.0	20.05			
160	SD130	2面	玄武岩	剝片		9.75	9.8	6.0	659.19			
161	SD130	2面	玄武岩	剝片		(6.1)	(4.55)	(2.45)	(107.31)			
162	SD130	2面	玄武岩	剥離帶		8.6	9.05	2.1	211.85			
163	30 165	SB139	3面	玄武岩	円軋形石器(周口?)	9.75	9.2	2.85	396.06			
164	30 164	SB139	3面	玄武岩	刃形	10.6	8.1	2.65	253.86			
165	SB139	3面	(126-138)	玄武岩	刃形	12.55	6.5	1.95	232.28			
166	SD130	4面	TD	玄武岩	刃形	(0.2)	7.15	1.95	(167.80)			
167	24 112	SD130	2面	玄武岩	刃形	14.4	8.5	3.0	448.64			
168	24 113	SD130	1面	(SD170合計)	円軋形石器(周口?)	8.15	7.55	1.85	180.15			
170	SD130	TD	玄武岩	横長削片		5.25	(6.45)	2.15	101.53			
171	SD130	最下層	玄武岩	剝片		6.0	7.9	1.2	70.13			
172	41 251	SD130	オリヅア火打石	玄武岩	刃形	5.55	13.55	1.35	120.73			
173	SD130	青灰岩	玄武岩	円軋形石器		9.35	9.05	2.35	288.63			
174	SD130	青灰岩	玄武岩	横長削片		5.85	11.55	2.45	157.18			
175	SD130	玄武岩	刃形	玄武岩	刃形	10.7	7.7	1.5	163.98			
177	塊丸	SD130	玄武岩	刃形	玄武岩	12.65	7.0	1.5	199.50			
178	塊丸	SD130	玄武岩	刃形	玄武岩	8.85	7.7	2.05	219.71			
179	SD600	TD	玄武岩	石斧		(8.65)	(6.85)	4.35	(390.85)			
180	SD130	黑色土	玄武岩	鍛灰岩(鍛造用)	石斧	(6.25)	5.45	2.10	(115.39)			
181	SD600	TD	花崗岩	石錐		7.20	5.50	3.35	128.93			
182	45 284	SD600	西	結晶片(結晶片状)	石錐	12.30	5.60	4.15	357.80			
183	SD130	1面	(微)	結晶片(結晶片状)	石錐	5.10	2.95	1.75	38.76			
184	SD600	TD	在洞石	石錐		9.30	(5.45)	2.8	(215.78)			
185	SD130	TD	2面	在洞石	石錐	10.20	9.30	2.55	355.00			
186	SD600	TD	花崗岩	石錐		8.05	2.05	2.15	55.97			
187	SD600	TD	玄武岩	石錐		8.75	3.05	2.15	25.96			
188	SD600	TD	玄武岩	石錐		7.15	4.0	3.0	115.44			
189	SD600	TD	石英	石錐		6.0	3.65	1.75	59.38			
190	SD600	TD	石英	石錐		3.75	3.05	2.05	33.00			
191	SD600	西	石英	石錐		2.85	1.95	0.9	7.72			

第2表 出土石器観察表(4)

序号	標印	番号	遺物	区	層位	材質	形態	長さ	幅	厚さ	重量	備考
192		SD096		北ベルト	(未)	鉄鋸	板状	3.9	2.0	0.95	11.40	
193		SD120	2脚(黒色土)	玄武岩	鉄鋸	板状	4.5	2.95	2.15	31.94		
194		SD096	北ベルト	野原産灰岩	石灰	J	(6.75)	(3.83)	0.6	(16.55)		
195		SD096	北ベルト	加曽石	鐵鋸	板状	3.40	3.50	1.15	9.42		
196	3b	214	SD120	TD	2脚	真岩	鐵石	10.80	3.25	1.25	61.80	[1]と同一個体
197	35	215	SD120	TD	2脚	真岩	鐵石	11.10	3.15	1.10	59.08	
198		SD120	TD	1脚(黒色)	真岩	小柄片	5.40	1.75	0.8	7.77		
199		SD120	TD	1脚(黒色)	真岩	小柄片	5.00	2.15	0.85	9.55		
200		SD120	北原上尾井	玄武岩	大柄片	5.45	8.0	0.8	95.14			
201		SD176	青灰砂岩	玄武岩	鋸片	5.25	3.6	0.6	11.83			
202		SD096	西	玄武岩	鋸片	12.30	6.55	3.35	286.10			
203	45	286	SD096	西	玄武岩	鋸片	11.20	6.90	1.95	151.70		
204		SD120	TD	2脚(黒色土)	玄武岩	鋸片	5.25	8.40	1.20	74.74		
205	38	225	SD120	東青灰砂岩	玄武岩	鋸片	11.70	6.55	1.65	210.60		
206		SD176	青灰砂岩	玄武岩	鋸片	11.90	4.55	1.30	102.67			
207		SD176	青灰砂岩	玄武岩	鋸片	7.50	15.50	3.15	400.54			
208		SD176	青灰砂岩	玄武岩	円盤研磨頭	10.05	8.95	2.10	259.28			
209		SD096	TD	玄武岩	鋸片	7.85	7.0	1.55	119.16			
210		SD096	西	玄武岩	鋸片	4.8	1.15	2.05	186.03			
211		SD096	西	玄武岩	鋸片	5.25	7.0	1.65	96.42			
212		SD096	西	玄武岩	鋸片	5.50	6.60	2.85	145.76			
213		SD120	TD	ビペルト	玄武岩	鋸片	4.40	6.05	0.95	36.41		
214		SD120	TD	2脚(黒色)	玄武岩	鋸片	4.90	(5.80)	1.05	(43.12)		
215		SD176	青灰砂岩下層	玄武岩	鋸片	8.35	8.19	1.35	121.93			
216		SD096	TD	玄武岩	鋸片	9.9	10.0	5.6	822.47			
217		SD096	TD	玄武岩	刀鍔	16.7	17.1	5.6	1843.64			
218		SD096	TD	緑色砂岩	石核	11.6	21.05	1.0	370.00			
219		SD096	TD	玄武岩	石核	13.55	19.60	6.75	259.0			
220		SD096	西	玄武岩	砾石	11.20	14.25	4.65	1167.33			
221		SD096	西	玄武岩	石核	11.40	12.50	2.85	537.78			
222		SD096	西	玄武岩	小核	12.50	14.50	3.65	1001.69			
223		SD096	西	玄武岩	石核	15.10	17.65	4.35	1737.07			

第3表 出土木器観察表

*△は現存品、△Vは復元品または仮定品を示す。

序号	通号	表面	底面	△	層位	種類	底面 (cm)	△	△	△	△	備考
27	138	11	SD130	TD	3脚(底面)	三叉足	西古 [3.1, 2], 極少 [1.8], 扇形 [2.15], 長脚 [3.15], 短脚 [3.15]	板状	コナラ属アカガシ底面			
27	137	5	SD120	SMW-6	板	扇形	扇形 [2.1, 3.1], 側面 [2.1], 長脚 [3.45] - 幅脚 [5.1]	板状	コナラ属アカガシ底面			
27	138	16	SD130	3脚	板	扇形	扇形 [1.1, 1.6], 側面 [1.1], 長脚 [1.6]	板状	コナラ属アカガシ底面			
27	139	23	SD130	3脚	板状木製品	扇形 [0.9], 側面 [0.5], 扇さく [2.1]	板状	スギ				
27	140	8	SD120	3脚	板状木製品	扇形 [0.9], 側面 [0.5], 扇さく [2.1]	板状	スギ				
27	141	2	SD120	3脚	鉄突具	扇形 [31.2], 側面 [2]	削形	スギ				
27	142	3	SD120	3脚	鉄突具	扇形 [16.6], 側面 [6], 扇厚 [9.9]	削形	スギ				
27	143	13	SD120	3脚	鉄片	扇形 [25.8], 側面 [18.4]	心棒丸木	サカキ				
27	144		SD120	3脚W-3	たも竹	扇形 [9.1] - 側面 [1.1]	心棒丸木	マキ属				
28	145	19	SD120	3脚	削り丸	扇形 [12.1], 側面 [7.4], 扇厚 [3.1]	削形	マツノキ属				
28	146	21	SD120	4脚	削り丸	扇形 [10.1], 側面 [5.1], 扇厚 [2.5]	削形	クヌノウ科				
28	147	7	SD120	3脚	削丸	扇形 [13.1], 側面 [7.1], 扇厚 [3.1]	削形	タブノノキ				
28	148	21	SD120	2脚	削品片	扇形 [20.9], 側面 [6], 扇厚 [1.7]	削形	スギ				
28	149	4	SD120	3脚W-4	扇形品	扇形 [20.9], 側面 [10.5], 扇厚 [4.3], 扇幅 [4.3]	削形	スギ				
29	150	16	SD120	3脚W-5	一木縄	扇形 [29.3, 3, 10], 扇厚 [23.8], 扇幅 [18] - 扇厚 [2.5], 扇幅 [2.5]	心棒丸木	コナラ属アカガシ底面				
29	151	36	SD120	3脚	削り丸	扇形 [61.4], 側面 [3-3.4]	心棒丸木	イヌノキ				
29	152	18	SD120	3脚	削り丸	扇形 [69.2], 側面 [7], 扇厚 [2.5]	削形	クリ				
29	153	19	SD120	3脚W-2	扇形	扇形 [69.2], 側面 [7], 扇厚 [2.5]	削形	コナラ属アカガシ底面				
29	154	15	SD120	TD	2脚	扇形 [69.2], 側面 [5.5], 扇厚 [2.7]	削形	コナラ属アカガシ底面				
29	155	17	SD120	3脚	削丸	扇形 [63.2], 側面 [5.5], 扇厚 [2.7]	削形	スギ				
29	156	22	SD120	3脚	削丸	扇形 [63.2], 側面 [5.5], 扇厚 [2.5]	削形	マツ属複数変來底面				
29	157	14	SD120	3脚	削丸	扇形 [66.7], 側面 [5-5.3]	心棒丸木	サカキ				
29	158	19	SD120	3脚	丸	丸 [58.6], 側面 [3-3.8]	心棒丸木	コナラ属アカガシ底面				
29	159	1	SD120	3脚	丸	丸 [44.1], 側面 [4.9-5.9]	心棒丸木	イヌノキ				

第4表 出土玉類・鉄器観察表

序号	写真	通号	遺物	層位	形態	材質	法線 (cm)	△	△	△	△	備考
4		SD098	玉	ハート	ガラス	楕円 [4.8], 扇形 [2.2]						
45	288	SD490	玉	扇形	ガラス	楕円 [4.8], 扇形 [2.2]						
45	290	SD490	玉	扇形	ガラス	楕円 [4.8], 扇形 [2.2]						
45	291	SD490	玉	扇形	ガラス	楕円 [4.8], 扇形 [2.2]						
46	265	SD126	SD126 2脚	#4	小皿	ガラス	楕円 [4.8], 扇形 [2.2]					
46	266	SD126	SD126 2脚	#1	大型	ガラス	楕円 [4.8], 扇形 [2.2], 東量 [113.8g]					